

日本語・日本文学科科目

科目名	古文の基礎【2013年度入学生】			担当教員	三浦一朗
対象学年	J1年	単位数・開講学期	1単位・前期	科目コード	J50003
概要	〔キーワード：古語、文法、表現理解〕 古典文法を学ぶこと自体を目的とするのではなく、その先にある古典作品と表現の魅力に触れるための手段として、古典文法の考え方を学ぶ。主に『百人一首』歌を教材とする。				
到達目標	古典作品の現代語訳や鑑賞を見て、なぜそのように訳したり、鑑賞したりすることができるのか、その理由や考え方がわかる。本文と見比べたときに、誰かの訳や鑑賞に疑問点があれば気づくことができる。				
授業の内容	1. ガイダンス 2. 動詞の活用 3. 形容詞の活用 4. 助動詞の活用 5. 「なむ」の識別 6. 「なり」の識別 7. 「ぬ」の識別 8. 「し」の識別 9. 掛詞の考え方 10. 「に」の識別 11. 助動詞「べし」の考え方 12. 助詞の働き（「さへ」など） 13. 助詞の働き（「だに」など） 14. 助詞の働き（「もぞ」「もこそ」など） 15. 22まとめ				
評価方法	出席状況 30%、試験 70%の割合で総合的に評価する。6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。その他、詳細はガイダンスで説明する。				
教材・教科書	『自分でつくる 新・古典文法サブノート』日栄社、¥340+税 その他、授業資料をプリントにして配布する。				
留意点	毎回の授業で使用するので、必ず古語辞典を持参すること。持参しない場合は欠席とみなすので、よく注意すること。新しく買い直す必要はなく、高校まで使っていたものでよい。				

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語文法基礎			担当教員	三浦一朗
対象学年	J1年	単位数・開講学期	1単位・前期	科目コード	J50000
概要	「古文の基礎【2013年度入学生】」を参照してください。				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	漢文の基礎【2013年度入学生】			担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J1年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード	J50004																		
概要	<p>〔キーワード： 東アジア文化、漢文、漢詩、訓点（返り点）〕</p> <p>漢文訓読は、外国語である中国語の文章を日本語の発想のまま理解しようとした、極めてユニークな翻訳文化である。東アジア文化の共通の基盤、日本伝統文化の基盤として、文学部の学生に身につけてほしい漢文の基礎を学び、有名な漢詩文の魅力に触れる。</p>																						
到達目標	<p>訓点（返り点）のついた基本的な漢文を読み、理解できる。</p> <p>有名な漢詩文の魅力について、理解を深める。</p>																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 漢文の作品を読む②</td> </tr> <tr> <td>2. 漢文訓読の基礎① 返り点と置き字</td> <td>11. 漢文の作品を読む③</td> </tr> <tr> <td>3. 漢文訓読の基礎② 再読文字</td> <td>12. 漢詩の基礎（定型、押韻、平仄など）</td> </tr> <tr> <td>4. 漢文訓読の基礎③ 疑問と反語</td> <td>13. 漢詩を読む①</td> </tr> <tr> <td>5. 漢文訓読の基礎④ 使役</td> <td>14. 漢詩を読む②</td> </tr> <tr> <td>6. 漢文訓読の基礎⑤ 否定・二重否定</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 漢文訓読の基礎⑥ 受身</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 漢文訓読の基礎⑦ 仮定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 漢文の作品を読む①</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	10. 漢文の作品を読む②	2. 漢文訓読の基礎① 返り点と置き字	11. 漢文の作品を読む③	3. 漢文訓読の基礎② 再読文字	12. 漢詩の基礎（定型、押韻、平仄など）	4. 漢文訓読の基礎③ 疑問と反語	13. 漢詩を読む①	5. 漢文訓読の基礎④ 使役	14. 漢詩を読む②	6. 漢文訓読の基礎⑤ 否定・二重否定	15. まとめ	7. 漢文訓読の基礎⑥ 受身		8. 漢文訓読の基礎⑦ 仮定		9. 漢文の作品を読む①	
1. ガイダンス	10. 漢文の作品を読む②																						
2. 漢文訓読の基礎① 返り点と置き字	11. 漢文の作品を読む③																						
3. 漢文訓読の基礎② 再読文字	12. 漢詩の基礎（定型、押韻、平仄など）																						
4. 漢文訓読の基礎③ 疑問と反語	13. 漢詩を読む①																						
5. 漢文訓読の基礎④ 使役	14. 漢詩を読む②																						
6. 漢文訓読の基礎⑤ 否定・二重否定	15. まとめ																						
7. 漢文訓読の基礎⑥ 受身																							
8. 漢文訓読の基礎⑦ 仮定																							
9. 漢文の作品を読む①																							
評価方法	<p>出席状況 30%、試験 70%の割合で総合的に評価する。</p> <p>6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。</p>																						
教材・教科書	<p>岩波ジュニア新書『漢文の読みかた』岩波書店、¥861・（税込）</p> <p>その他、授業資料をプリントにして配布する。</p>																						
留意点																							

日本語・日本文学科科目

科目名	漢文学基礎			担当教員	三浦一朗
対象学年	J1年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード	J50002
概要	<p>「漢文の基礎【2013年度入学生】」を参照してください。</p>				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学概論 A		担当教員	野沢勝夫																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J51000																		
概要	〔キーワード 日本語・国語 音声 音韻 単音 母音 子音 音韻史 アクセント イントネーション 五十音図 いろは歌 文字 漢字 万葉仮名 平がな カタカナ 〕 「テキスト」に基づいて日本語についての基礎的なことがらを講述する																					
到達目標	①世界の言語と日本語(国語)についての概要を理解する。 ②「音韻」と「文字」について基礎的な知識を習得する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 序 説(1) 言語の本質</td> <td>10. 文 字(1) 音韻と文字</td> </tr> <tr> <td>2. 序 説(2) 世界の中の日本語</td> <td>11. 文 字(2) 漢字の伝来・歴史・構造</td> </tr> <tr> <td>3. 序 説(3) 日本語について</td> <td>12. 文 字(3) 漢字の音と訓</td> </tr> <tr> <td>4. 音 韻(1) 音声と音韻</td> <td>13. 文 字(4) 万葉仮名・平がな・片カナ</td> </tr> <tr> <td>5. 音 韻(2) 単音と音節</td> <td>14. 文 字(5) 仮名づかい</td> </tr> <tr> <td>6. 音 韻(3) 母音と子音</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 音 韻(4) アクセントとイントネーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 音 韻(5) 音韻の変遷</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 音 韻(6) 音節一覧<五十音図・いろは歌等></td> <td></td> </tr> </table>				1. 序 説(1) 言語の本質	10. 文 字(1) 音韻と文字	2. 序 説(2) 世界の中の日本語	11. 文 字(2) 漢字の伝来・歴史・構造	3. 序 説(3) 日本語について	12. 文 字(3) 漢字の音と訓	4. 音 韻(1) 音声と音韻	13. 文 字(4) 万葉仮名・平がな・片カナ	5. 音 韻(2) 単音と音節	14. 文 字(5) 仮名づかい	6. 音 韻(3) 母音と子音	15. まとめ	7. 音 韻(4) アクセントとイントネーション		8. 音 韻(5) 音韻の変遷		9. 音 韻(6) 音節一覧<五十音図・いろは歌等>	
1. 序 説(1) 言語の本質	10. 文 字(1) 音韻と文字																					
2. 序 説(2) 世界の中の日本語	11. 文 字(2) 漢字の伝来・歴史・構造																					
3. 序 説(3) 日本語について	12. 文 字(3) 漢字の音と訓																					
4. 音 韻(1) 音声と音韻	13. 文 字(4) 万葉仮名・平がな・片カナ																					
5. 音 韻(2) 単音と音節	14. 文 字(5) 仮名づかい																					
6. 音 韻(3) 母音と子音	15. まとめ																					
7. 音 韻(4) アクセントとイントネーション																						
8. 音 韻(5) 音韻の変遷																						
9. 音 韻(6) 音節一覧<五十音図・いろは歌等>																						
評価方法	①出席状況(毎時間チェックし、成績に加算する) 20% ②試験の結果 80%																					
教材・教科書	『緑の日本語教本』(和泉書院) ①コピー(補充教材) ②プリント(演習問題)等も随時配付して、併用する。																					
留意点	自分の使いなれた「国語辞書」を持参すること 「国語便覧」もあれば持参すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学概論 B		担当教員	野沢勝夫																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード J51001																		
概要	〔キーワード 語彙 語種(和語・漢語・外来語・混種語) 位相 語構成 文法学説 漢文と変体漢文 方言と共通語 方言区画 方言地理学 〕。 「テキスト」に基づいて日本語についての基礎的なことがらを講述する																					
到達目標	①「語彙」「文法」「文章」「方言」について基礎的な知識を習得する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 語 彙(1) 語彙の分類 理解語彙</td> <td>10. 文 章(1) 漢文と変体漢文</td> </tr> <tr> <td>2. 語 彙(2) 語彙の分類 使用語彙</td> <td>11. 文 章(2) 和文の発達</td> </tr> <tr> <td>3. 語 彙(3) 語種 和語</td> <td>12. 方 言(1) 共通語と方言</td> </tr> <tr> <td>4. 語 彙(4) 語種 漢語</td> <td>13. 方 言(2) 方言区画</td> </tr> <tr> <td>5. 語 彙(5) 語種 外来語・混種語</td> <td>14. 方 言(3) 方言地理学</td> </tr> <tr> <td>6. 語 彙(6) 語彙の位相</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 語 彙(7) 語構成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 文 法(1) 品詞論と構文論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 文 法(2) 代表的文法学説</td> <td></td> </tr> </table>				1. 語 彙(1) 語彙の分類 理解語彙	10. 文 章(1) 漢文と変体漢文	2. 語 彙(2) 語彙の分類 使用語彙	11. 文 章(2) 和文の発達	3. 語 彙(3) 語種 和語	12. 方 言(1) 共通語と方言	4. 語 彙(4) 語種 漢語	13. 方 言(2) 方言区画	5. 語 彙(5) 語種 外来語・混種語	14. 方 言(3) 方言地理学	6. 語 彙(6) 語彙の位相	15. まとめ	7. 語 彙(7) 語構成		8. 文 法(1) 品詞論と構文論		9. 文 法(2) 代表的文法学説	
1. 語 彙(1) 語彙の分類 理解語彙	10. 文 章(1) 漢文と変体漢文																					
2. 語 彙(2) 語彙の分類 使用語彙	11. 文 章(2) 和文の発達																					
3. 語 彙(3) 語種 和語	12. 方 言(1) 共通語と方言																					
4. 語 彙(4) 語種 漢語	13. 方 言(2) 方言区画																					
5. 語 彙(5) 語種 外来語・混種語	14. 方 言(3) 方言地理学																					
6. 語 彙(6) 語彙の位相	15. まとめ																					
7. 語 彙(7) 語構成																						
8. 文 法(1) 品詞論と構文論																						
9. 文 法(2) 代表的文法学説																						
評価方法	① 出席状況(毎時間チェックし、成績に加算する) 20% ② 試験の結果 80%																					
教材・教科書	『緑の日本語教本』(和泉書院) ①コピー(補充教材) ②プリント(演習問題)も随時配付して、併用する。																					
留意点	自分の使いなれた「国語辞書」を持参すること 「国語便覧」もあれば持参すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語音声学【2013年度入学生】		担当教員	今村かほる																		
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード																		
				B52006																		
概要	<p>[キーワード 日本語の音声学的特徴の理解と実践]</p> <p>日本語の音声的特徴を、国際音声学協会の国際音声字母を用いて理解する。 日本語を第二言語として発音した教材も使い、耳の訓練をおこなう。</p>																					
到達目標	<p>日本語の母音を基本母音との比較において理解し、実践できる。 日本語の子音を、国際音声字母との関連において理解し、実践できる</p>																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.講義の進め方・実技試験についてのガイダンス</td> <td>10.日本語の子音</td> </tr> <tr> <td>2.音声と音声学</td> <td>11.日本語の子音</td> </tr> <tr> <td>3.単音と音節</td> <td>12.音節と拍</td> </tr> <tr> <td>4.子音と母音、国際音声字母</td> <td>13.アクセント</td> </tr> <tr> <td>5.基本母音</td> <td>14.日本語のアクセントとイントネーション、ポーズ、プロミネンス</td> </tr> <tr> <td>6.基本母音（実技）</td> <td>15.試験</td> </tr> <tr> <td>7.日本語の母音と基本母音（実技）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.日本語の子音</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.日本語の子音</td> <td></td> </tr> </table>				1.講義の進め方・実技試験についてのガイダンス	10.日本語の子音	2.音声と音声学	11.日本語の子音	3.単音と音節	12.音節と拍	4.子音と母音、国際音声字母	13.アクセント	5.基本母音	14.日本語のアクセントとイントネーション、ポーズ、プロミネンス	6.基本母音（実技）	15.試験	7.日本語の母音と基本母音（実技）		8.日本語の子音		9.日本語の子音	
1.講義の進め方・実技試験についてのガイダンス	10.日本語の子音																					
2.音声と音声学	11.日本語の子音																					
3.単音と音節	12.音節と拍																					
4.子音と母音、国際音声字母	13.アクセント																					
5.基本母音	14.日本語のアクセントとイントネーション、ポーズ、プロミネンス																					
6.基本母音（実技）	15.試験																					
7.日本語の母音と基本母音（実技）																						
8.日本語の子音																						
9.日本語の子音																						
評価方法	試験（筆記と実技）80・出席20																					
教材・教科書	齋藤純男『日本語音声学入門』三省堂																					
留意点	実技試験を講義時間中と前期末に実施する。使用教室の都合により、履修者を上限50名とする。（越えた場合は抽選）																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語文法論 A			担当教員	川瀬 卓																		
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード	J51002																		
概要	〔キーワード：品詞、活用、文法カテゴリー、ヴォイス、アスペクト、テンス〕 高校まで習ってきた「文法」とは違う見方から、ことばの仕組みを分析していく。日本語の具体的な分析をもとに、ことばの奥深さや面白さを感じる。																						
到達目標	ことばの仕組みについて、データをもとに分析できるようになる。 ものごとを論理的に考え、説明できるようになる。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 方言の自発形式</td> </tr> <tr> <td>2. 品詞とは</td> <td>11. レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>3. 品詞の連続性</td> <td>12. 時間の表現(1) テンス</td> </tr> <tr> <td>4. 動詞の活用</td> <td>13. 時間の表現(2) アスペクト</td> </tr> <tr> <td>5. 文の組立て</td> <td>14. 時間の表現(3) 方言の時間表現</td> </tr> <tr> <td>6. 方言の格助詞</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 自動詞と他動詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 受身の表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 使役の表現</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. 方言の自発形式	2. 品詞とは	11. レポートの書き方	3. 品詞の連続性	12. 時間の表現(1) テンス	4. 動詞の活用	13. 時間の表現(2) アスペクト	5. 文の組立て	14. 時間の表現(3) 方言の時間表現	6. 方言の格助詞	15. まとめ	7. 自動詞と他動詞		8. 受身の表現		9. 使役の表現	
1. 導入	10. 方言の自発形式																						
2. 品詞とは	11. レポートの書き方																						
3. 品詞の連続性	12. 時間の表現(1) テンス																						
4. 動詞の活用	13. 時間の表現(2) アスペクト																						
5. 文の組立て	14. 時間の表現(3) 方言の時間表現																						
6. 方言の格助詞	15. まとめ																						
7. 自動詞と他動詞																							
8. 受身の表現																							
9. 使役の表現																							
評価方法	コメントカード 20%、予習課題 30%、レポート 50%																						
教材・教科書	山田敏弘 (2004) 『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 また、別途資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。																						
留意点	単なる知識の暗記ではなく、自分なりに道筋を立てて考えるようにすること。 日本語文法論 A と B を通年で受講することを念頭に置いている。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語文法論 B			担当教員	川瀬 卓																		
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	J51003																		
概要	〔キーワード：モダリティ、文の成分、文の部品、待遇表現〕 A と同様にことばの仕組みを分析していくが、B では高校まで習ってきた「文法」が抱える問題点を意識することに重点を置く。講義を通して、文法の捉え方が一つではないことを学ぶ。																						
到達目標	ことばの仕組みを捉え、論理的に説明できるようになる。 文法論を考えるうえで何が問題となるのかを理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>2. 話し手の出来事に対する捉え方(1)</td> <td>11. やりもらいの表現</td> </tr> <tr> <td>3. 話し手の出来事に対する捉え方(2)</td> <td>12. 待遇表現と敬語(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 連体修飾</td> <td>13. 待遇表現と敬語(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 副詞と連用修飾</td> <td>14. まとめ(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 副詞の種類</td> <td>15. まとめ(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 連体詞・接続詞・感動詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 副助詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 接続助詞</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. レポートの書き方	2. 話し手の出来事に対する捉え方(1)	11. やりもらいの表現	3. 話し手の出来事に対する捉え方(2)	12. 待遇表現と敬語(1)	4. 連体修飾	13. 待遇表現と敬語(2)	5. 副詞と連用修飾	14. まとめ(1)	6. 副詞の種類	15. まとめ(2)	7. 連体詞・接続詞・感動詞		8. 副助詞		9. 接続助詞	
1. 導入	10. レポートの書き方																						
2. 話し手の出来事に対する捉え方(1)	11. やりもらいの表現																						
3. 話し手の出来事に対する捉え方(2)	12. 待遇表現と敬語(1)																						
4. 連体修飾	13. 待遇表現と敬語(2)																						
5. 副詞と連用修飾	14. まとめ(1)																						
6. 副詞の種類	15. まとめ(2)																						
7. 連体詞・接続詞・感動詞																							
8. 副助詞																							
9. 接続助詞																							
評価方法	コメントカード 20%、予習課題 30%、レポート 50%																						
教材・教科書	山田敏弘 (2004) 『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 また、別途資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。																						
留意点	単なる知識の暗記ではなく、自分なりに道筋を立てて考えるようにすること。 日本語文法論 A と B を通年で受講することを念頭に置いている。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語史 A		担当教員	郡 千寿子																
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J51004																
概要	[キーワード：日本語・歴史] 日本語の歴史について、時代別あるいは分野別に概説する。																			
到達目標	言語学的観点から、日本語の歴史や社会、文化について、考察を加えられるようになること。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 「国語史」と「日本語史」</td> <td>9. 近世の日本語 ①</td> </tr> <tr> <td>2. 世界の言語と日本語</td> <td>10. 近世の日本語 ②</td> </tr> <tr> <td>3. 上代の日本語 ①</td> <td>11. 近代の日本語 ①</td> </tr> <tr> <td>4. 上代の日本語 ②</td> <td>12. 近代の日本語 ②</td> </tr> <tr> <td>5. 中古の日本語 ①</td> <td>13. 現代の日本語 ①</td> </tr> <tr> <td>6. 中古の日本語 ②</td> <td>14. 現代の日本語 ②</td> </tr> <tr> <td>7. 中世の日本語 ①</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中世の日本語 ②</td> <td></td> </tr> </table>				1. 「国語史」と「日本語史」	9. 近世の日本語 ①	2. 世界の言語と日本語	10. 近世の日本語 ②	3. 上代の日本語 ①	11. 近代の日本語 ①	4. 上代の日本語 ②	12. 近代の日本語 ②	5. 中古の日本語 ①	13. 現代の日本語 ①	6. 中古の日本語 ②	14. 現代の日本語 ②	7. 中世の日本語 ①	15. まとめ	8. 中世の日本語 ②	
1. 「国語史」と「日本語史」	9. 近世の日本語 ①																			
2. 世界の言語と日本語	10. 近世の日本語 ②																			
3. 上代の日本語 ①	11. 近代の日本語 ①																			
4. 上代の日本語 ②	12. 近代の日本語 ②																			
5. 中古の日本語 ①	13. 現代の日本語 ①																			
6. 中古の日本語 ②	14. 現代の日本語 ②																			
7. 中世の日本語 ①	15. まとめ																			
8. 中世の日本語 ②																				
評価方法	出席点 20 点、レポート評価点 30 点、試験 50 点																			
教材・教科書	山口仲美 『日本語の歴史』 岩波書店																			
留意点	講義ですが、積極的に受講者の意見を求めます。																			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学 A		担当教員	今村かほる																		
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J51006																		
概要	[キーワード 現代語研究の基礎] 日本語学（現代語・口語）の基本的な考え方について、学生の身近なテーマに基づいて学ぶ。 また、主に図書館に所蔵している日本語学研究の基本文献を紹介し、理解する。																					
到達目標	日本語学の基本的な考え方と基本文献を理解する。図書館の使い方を理解する。 レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 前期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス</td> <td>10. 発表の準備</td> </tr> <tr> <td>2. 学術研究</td> <td>11. プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>3. 入門日本語学とは</td> <td>12. プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>4. 大学生と図書館</td> <td>13. プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>5. 学術研究のための図書館</td> <td>14. プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>6. 現代語研究</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 現代語研究</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. テーマ別調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. テーマ別調査</td> <td></td> </tr> </table>				1. 前期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス	10. 発表の準備	2. 学術研究	11. プレゼンテーション	3. 入門日本語学とは	12. プレゼンテーション	4. 大学生と図書館	13. プレゼンテーション	5. 学術研究のための図書館	14. プレゼンテーション	6. 現代語研究	15. 総括	7. 現代語研究		8. テーマ別調査		9. テーマ別調査	
1. 前期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス	10. 発表の準備																					
2. 学術研究	11. プレゼンテーション																					
3. 入門日本語学とは	12. プレゼンテーション																					
4. 大学生と図書館	13. プレゼンテーション																					
5. 学術研究のための図書館	14. プレゼンテーション																					
6. 現代語研究	15. 総括																					
7. 現代語研究																						
8. テーマ別調査																						
9. テーマ別調査																						
評価方法	出席 20 ・ 発表 40 ・ 提出物 40																					
教材・教科書	北原保雄編 『問題な日本語』3 大修館書店																					
留意点	発表資料はワープロソフトを用いて作成することを原則とする。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学 B			担当教員	今村かほる																		
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	J51007																		
概要	[キーワード 現代語研究の基礎]保健医療福祉と方言。 津軽という地域は、方言主流社会と呼ばれる言語社会である。そこで生活する生活者として、病院や福祉施設におけるコミュニケーションとことばについて考える																						
到達目標	各地の方言集から、保健医療福祉に関する方言を採取する。 それらを実際のコミュニケーション場面別に、分類する。 レジュメの作り方、発表の仕方などプレゼンテーションの能力を高める。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 後期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス</td> <td>10. 現代語演習</td> </tr> <tr> <td>2. 文献の講読</td> <td>11. 現代語演習</td> </tr> <tr> <td>3. 文献の講読</td> <td>12. 現代語演習</td> </tr> <tr> <td>4. 文献の講読</td> <td>13. 現代語演習</td> </tr> <tr> <td>5. パソコン実習</td> <td>14. 現代語演習</td> </tr> <tr> <td>6. 図書館演習</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 図書館演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 現代語演習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 現代語演習</td> <td></td> </tr> </table>					1. 後期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス	10. 現代語演習	2. 文献の講読	11. 現代語演習	3. 文献の講読	12. 現代語演習	4. 文献の講読	13. 現代語演習	5. パソコン実習	14. 現代語演習	6. 図書館演習	15. 総括	7. 図書館演習		8. 現代語演習		9. 現代語演習	
1. 後期講義・演習の進め方・評価についてのガイダンス	10. 現代語演習																						
2. 文献の講読	11. 現代語演習																						
3. 文献の講読	12. 現代語演習																						
4. 文献の講読	13. 現代語演習																						
5. パソコン実習	14. 現代語演習																						
6. 図書館演習	15. 総括																						
7. 図書館演習																							
8. 現代語演習																							
9. 現代語演習																							
評価方法	発表 40・出席 20・レポート 40																						
教材・教科書																							
留意点	発表資料はワープロソフトと表計算用いて作成する。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学 C			担当教員	野沢勝夫																		
対象学年	J2 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード	J51008																		
概要	[キーワード 変体仮名 お伽草子 「一寸法師」 初期版本 近世語] よく知られたお伽ばなし「一寸法師」を初期の版本のテキストで、変体仮名の解説を交えながらゆっくり丁寧に読む。																						
到達目標	① 初期の「版本」を読んで「変体仮名」を具体的に理解する。 ② 古典の文字、語彙、語法が近代語に移り変わる様相を具体的に理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 「変体仮名」の誕生の経緯</td> <td>10. 御伽草子「一寸法師」講読 (6)</td> </tr> <tr> <td>2. 初期の版本『渋川版伽草子』について</td> <td>11. 御伽草子「一寸法師」講読 (7)</td> </tr> <tr> <td>3. 「模写ノート」「変体仮名表」の作り方</td> <td>12. 御伽草子「一寸法師」講読 (8)</td> </tr> <tr> <td>4. 御伽草子「一寸法師」講読 (1)</td> <td>13. 御伽草子「一寸法師」講読 (9)</td> </tr> <tr> <td>5. 御伽草子「一寸法師」講読 (2)</td> <td>14. 御伽草子「一寸法師」講読 (10)</td> </tr> <tr> <td>6. 御伽草子「一寸法師」講読 (3)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 御伽草子「一寸法師」講読 (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「変体仮名」のチェックテストと解説</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 御伽草子「一寸法師」講読 (5)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 「変体仮名」の誕生の経緯	10. 御伽草子「一寸法師」講読 (6)	2. 初期の版本『渋川版伽草子』について	11. 御伽草子「一寸法師」講読 (7)	3. 「模写ノート」「変体仮名表」の作り方	12. 御伽草子「一寸法師」講読 (8)	4. 御伽草子「一寸法師」講読 (1)	13. 御伽草子「一寸法師」講読 (9)	5. 御伽草子「一寸法師」講読 (2)	14. 御伽草子「一寸法師」講読 (10)	6. 御伽草子「一寸法師」講読 (3)	15. まとめ	7. 御伽草子「一寸法師」講読 (4)		8. 「変体仮名」のチェックテストと解説		9. 御伽草子「一寸法師」講読 (5)	
1. 「変体仮名」の誕生の経緯	10. 御伽草子「一寸法師」講読 (6)																						
2. 初期の版本『渋川版伽草子』について	11. 御伽草子「一寸法師」講読 (7)																						
3. 「模写ノート」「変体仮名表」の作り方	12. 御伽草子「一寸法師」講読 (8)																						
4. 御伽草子「一寸法師」講読 (1)	13. 御伽草子「一寸法師」講読 (9)																						
5. 御伽草子「一寸法師」講読 (2)	14. 御伽草子「一寸法師」講読 (10)																						
6. 御伽草子「一寸法師」講読 (3)	15. まとめ																						
7. 御伽草子「一寸法師」講読 (4)																							
8. 「変体仮名」のチェックテストと解説																							
9. 御伽草子「一寸法師」講読 (5)																							
評価方法	①出席状況(毎時間チェックし、成績に加算する) 20% ②「模写ノート」の提出 30% ③ 試験(自作の「変体仮名表」持ち込み可) 50%																						
教材・教科書	① 御伽草子叢書『一寸法師』(三弥井書店) ②『辞典かな(新訂版)』(笠間書院) ③ 毎時、翻字資料、現代語訳を配付する																						
留意点	① 授業時には『辞典かな(新訂版)』を必携。「国語便覧」もあれば持参すること。 ② 授業と並行して「変体仮名表」「模写ノート」を作成すること																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習 IA			担当教員	今村かほる																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J52000																		
概要	〔キーワード： 方言調査を学ぼう 〕 フィールドワークの基本を学び、方言調査の基礎として、準備と計画・調査方法を実践する。																						
到達目標	フィールドワークの基本を学び、方言調査の基礎基本を身につける																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方に関するガイダンス</td> <td>10. 調査準備 1 (調査の内容)</td> </tr> <tr> <td>2. フィールドワークという手法を知る 1</td> <td>11. 調査準備 2 (調査の仕方 1)</td> </tr> <tr> <td>3. フィールドワークという手法を知る 2</td> <td>12. 調査準備 3 (調査の仕方 2)</td> </tr> <tr> <td>4. 東日本大震災と方言 1</td> <td>13. 調査準備 4 (機器の操作)</td> </tr> <tr> <td>5. 東日本大震災と方言 2</td> <td>14. 調査の実施 1</td> </tr> <tr> <td>6. 東日本大震災と方言 3</td> <td>15. 調査の実施 2</td> </tr> <tr> <td>7. 調査地の選定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 調査計画 2</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 調査準備 1 (調査の内容)	2. フィールドワークという手法を知る 1	11. 調査準備 2 (調査の仕方 1)	3. フィールドワークという手法を知る 2	12. 調査準備 3 (調査の仕方 2)	4. 東日本大震災と方言 1	13. 調査準備 4 (機器の操作)	5. 東日本大震災と方言 2	14. 調査の実施 1	6. 東日本大震災と方言 3	15. 調査の実施 2	7. 調査地の選定		8. 調査計画 1		9. 調査計画 2	
1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 調査準備 1 (調査の内容)																						
2. フィールドワークという手法を知る 1	11. 調査準備 2 (調査の仕方 1)																						
3. フィールドワークという手法を知る 2	12. 調査準備 3 (調査の仕方 2)																						
4. 東日本大震災と方言 1	13. 調査準備 4 (機器の操作)																						
5. 東日本大震災と方言 2	14. 調査の実施 1																						
6. 東日本大震災と方言 3	15. 調査の実施 2																						
7. 調査地の選定																							
8. 調査計画 1																							
9. 調査計画 2																							
評価方法	出席 50 レポート 50																						
教材・教科書	適宜、配布する																						
留意点	夏休みに、調査のまとめと報告をレポートとする																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習 IB			担当教員	今村かほる																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J52001																		
概要	〔キーワード： 方言調査資料の分析と考察 〕 実際に調査で得たデータを、客観的に分析できるように整理する。 また、それをもとに、言語学的分析と考察の基礎を養う。																						
到達目標	パソコンを用いて、データを入力・分析・考察する																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方に関するガイダンス</td> <td>10. 言語データの分析と考察</td> </tr> <tr> <td>2. 方言を聞き取る 1</td> <td>11. 発表 1</td> </tr> <tr> <td>3. 方言を聞き取る 2</td> <td>12. 発表 2</td> </tr> <tr> <td>4. 方言を聞き取る 3</td> <td>13. 発表 3</td> </tr> <tr> <td>5. 方言を聞き取る 4</td> <td>14. 発表 4.</td> </tr> <tr> <td>6. 方言を聞き取る 5</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 方言を文字化する 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 方言を文字化する 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 方言を文字化する 3</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 言語データの分析と考察	2. 方言を聞き取る 1	11. 発表 1	3. 方言を聞き取る 2	12. 発表 2	4. 方言を聞き取る 3	13. 発表 3	5. 方言を聞き取る 4	14. 発表 4.	6. 方言を聞き取る 5	15. 総括	7. 方言を文字化する 1		8. 方言を文字化する 2		9. 方言を文字化する 3	
1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 言語データの分析と考察																						
2. 方言を聞き取る 1	11. 発表 1																						
3. 方言を聞き取る 2	12. 発表 2																						
4. 方言を聞き取る 3	13. 発表 3																						
5. 方言を聞き取る 4	14. 発表 4.																						
6. 方言を聞き取る 5	15. 総括																						
7. 方言を文字化する 1																							
8. 方言を文字化する 2																							
9. 方言を文字化する 3																							
評価方法	出席 50 発表 50																						
教材・教科書																							
留意点	出席重視																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習 IC		担当教員	野沢勝夫
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J52002
概要	〔キーワード 平家物語 戦記(軍記)物語 写本 変体仮名 中世語〕 平家物語の有力な伝本である「高野本<写本>」をテキストに、文字・語彙・文法等の知識を駆使して原典をゆっくり丁寧に読む。前期は女性を主人公とする「祇王」の巻を読む。			
到達目標	① 「写本」の変体仮名を読み慣れる。また、「写本」の扱い方に慣れる。 ② 平家物語のなかの中世的な語彙・語法を、作品に即して具体的に理解する。			
授業の内容	1. 「写本」の扱い方 2. 「平家物語(祇王)」について 3. 「平家物語(祇王)」講読 (1) 4. 「平家物語(祇王)」講読 (2) 5. 「平家物語(祇王)」講読 (3) 6. 「平家物語(祇王)」講読 (4) 7. 「平家物語(祇王)」講読 (5) 8. 「平家物語(祇王)」講読 (6) 9. 「平家物語(祇王)」講読 (7) 10. 「平家物語(祇王)」講読 (8) 11. 「平家物語(祇王)」講読 (9) 12. 「平家物語(祇王)」講読 (10) 13. 「平家物語(祇王)」講読 (11) 14. 「平家物語(祇王)」講読 (12) 15. まとめ			
評価方法	① 出席率および授業への参加 20% ② 読み仮名付け「課題プリント」の提出 30% ③ 試験(自作の「変体仮名表」持ち込み可) 50%			
教材・教科書	① テキストとして「高野本平家物語(祇王)<写本>」のコピー使用 ② 随時、参考プリント・現代語訳を配付 ③ 活字本『要注平家物語(新抄)』(授業時に指示)			
留意点	① 授業時には『辞書かな(新訂版)』を必携。「国語便覧」もあれば持参すること。 ② 授業と並行して「変体仮名表」作成、「課題プリント」の仮名付け作業をすること(要、提出)			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習 ID		担当教員	野沢勝夫
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J52003
概要	〔キーワード 平家物語 戦記(軍記)物語 写本 変体仮名 中世語〕 平家物語の有力な伝本である「高野本<写本>」をテキストに、文字・語彙・文法等の知識を駆使して原典をゆっくり丁寧に読む。後期も女性が主人公の「小督」「小宰相」を読む。			
到達目標	① 「写本」の変体仮名を読み慣れる。また、「写本」の扱い方に慣れる ② 平家物語のなかの中世的な語彙・語法を、作品に即して具体的に理解する。			
授業の内容	1. 「平家物語(小督)」について 2. 「平家物語(小督)」講読 (1) 3. 「平家物語(小督)」講読 (2) 4. 「平家物語(小督)」講読 (3) 5. 「平家物語(小督)」講読 (4) 6. 「平家物語(小督)」講読 (5) 7. 「平家物語(小宰相)」について 8. 「平家物語(小宰相)」講読 (1) 9. 「平家物語(小宰相)」講読 (2) 10. 「平家物語(小宰相)」講読 (3) 11. 「平家物語(小宰相)」講読 (4) 12. 「平家物語(小宰相)」講読 (5) 13. 「平家物語(小宰相)」講読 (6) 14. 「平家物語(小宰相)」講読 (7) 15. まとめ			
評価方法	① 読み仮名付け「プリント」の提出 30% ③ 出席率および授業への参加 20% ② 試験(自作の「変体仮名表」持ち込み可) 50%			
教材・教科書	① テキストとして「高野本平家物語(小督・小宰相)<写本>」のコピー使用 ② 随時、参考プリント・現代語訳を配付 ③ 活字本『要注平家物語(新抄)』(授業時に指示)			
留意点	① 授業時には『辞書かな(新訂版)』を必携。「国語便覧」もあれば持参すること。 ② 授業と並行して「変体仮名表」作成、「課題プリント」の仮名付け作業をすること(要、提出)			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習ⅡA			担当教員	今村かほる																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J52004																		
概要	〔キーワード： 役割語研究 〕 人間の話し方・話題・語法などから、いかにもその人物が話していそうな人物像が思い浮かぶことがある。そうした話し方と人物像の結びつきについて学ぶ。																						
到達目標	役割語とは何かを知る。 現代語研究としての「役割語」や「方言コスプレ」などの視点を知る。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方に関するガイダンス</td> <td>10. 講読</td> </tr> <tr> <td>2. 図書館演習（基本ツールの特徴）</td> <td>11. 講読</td> </tr> <tr> <td>3. 図書館演習（文献検索と入手法）</td> <td>12. 講読</td> </tr> <tr> <td>4. 図書館演習（演習）</td> <td>13. 講読</td> </tr> <tr> <td>5. 図書館演習（演習）</td> <td>14. 講読</td> </tr> <tr> <td>6. web検索（データベース検索）</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. web検索（文献リストの作成）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 講読</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 講読</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 講読	2. 図書館演習（基本ツールの特徴）	11. 講読	3. 図書館演習（文献検索と入手法）	12. 講読	4. 図書館演習（演習）	13. 講読	5. 図書館演習（演習）	14. 講読	6. web検索（データベース検索）	15. 総括	7. web検索（文献リストの作成）		8. 講読		9. 講読	
1. 演習の進め方に関するガイダンス	10. 講読																						
2. 図書館演習（基本ツールの特徴）	11. 講読																						
3. 図書館演習（文献検索と入手法）	12. 講読																						
4. 図書館演習（演習）	13. 講読																						
5. 図書館演習（演習）	14. 講読																						
6. web検索（データベース検索）	15. 総括																						
7. web検索（文献リストの作成）																							
8. 講読																							
9. 講読																							
評価方法	出席 20・発表 80																						
教材・教科書	金水 敏『役割語研究の地平』くろしお出版 2,500円																						
留意点																							

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習ⅡB			担当教員	今村かほる																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J52005																		
概要	〔キーワード 現代日本語研究（口語） 〕 前期とはその発生を異にする国立国語研究所以来の「共通語」および共通語教育論争について理解する。																						
到達目標	戦後の国語教育における方言と共通語について理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 演習の進め方・評価に関するガイダンス</td> <td>10. 発表</td> </tr> <tr> <td>2. 国語と方言</td> <td>11. 発表</td> </tr> <tr> <td>3. 先行研究</td> <td>12. 発表</td> </tr> <tr> <td>4. 先行研究</td> <td>13. 発表</td> </tr> <tr> <td>5. 先行研究</td> <td>14. 発表</td> </tr> <tr> <td>6. 文献収集</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>7. 文献収集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 文献収集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表</td> <td></td> </tr> </table>					1. 演習の進め方・評価に関するガイダンス	10. 発表	2. 国語と方言	11. 発表	3. 先行研究	12. 発表	4. 先行研究	13. 発表	5. 先行研究	14. 発表	6. 文献収集	15. 総括	7. 文献収集		8. 文献収集		9. 発表	
1. 演習の進め方・評価に関するガイダンス	10. 発表																						
2. 国語と方言	11. 発表																						
3. 先行研究	12. 発表																						
4. 先行研究	13. 発表																						
5. 先行研究	14. 発表																						
6. 文献収集	15. 総括																						
7. 文献収集																							
8. 文献収集																							
9. 発表																							
評価方法	発表 80・出席 20																						
教材・教科書																							
留意点	発表原稿は原則としてワープロソフトを用いて作成すること。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習ⅡC		担当教員	野沢勝夫
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J52006
概要	〔キーワード 説話 今昔物語 漢文 変体漢文 宣命体 訓読文 漢字片仮名文〕 大説話集『今昔物語』の中から興味深い話(芥川龍之介の「歴史もの」の原話など)を選び、語彙、語法の解説を交えながら、ゆっくり丁寧に読みすすめる。			
到達目標	①漢字かな交じり文の原型である「訓読文体」を理解し、読み慣れる。 ②代表的な説話を読み、王朝文学とは内容・表記とも全く異なる『今昔物語』の世界を理解する。			
授業の内容	1. 「説話」と「説話集」について 2. 『今昔物語』の世界を理解する(1) 3. 『今昔物語』の世界を理解する(2) 4. 「今昔物語(本朝仏教篇)」を読む (1) 5. 「今昔物語(本朝仏教篇)」を読む (2) 6. 「今昔物語(本朝仏教篇)」を読む (3) 7. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (1) 8. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (2) 9. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (3) 10. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (4) 11. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (5) 12. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (6) 13. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (7) 14. 「今昔物語(本朝世俗篇)」を読む (8) 15. まとめ			
評価方法	① 出席状況 20% ③ 課題レポート 30% ② 試験(授業で使用した資料持ちこみ可)の結果 50%			
教材・教科書	① 角川文庫『今昔物語集(本朝篇)上・下』 ② 「原典コピー」・参考資料・現代語訳等はその都度、用意して配付する。			
留意点	「国語便覧」の類があれば持参すること 出席して積極的に授業に参加すること 適宜、「卒論・卒レポ」のアドバイスもする予定			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本語学演習ⅡD		担当教員	野沢勝夫
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J52007
概要	〔キーワード 説話 今昔物語 漢文 変体漢文 宣命体 訓読文 漢字片仮名文〕 受講者が興味・関心を寄せた話を選び、原典で講読する。			
到達目標	①漢字かな交じり文の原型である「訓読文体」を理解し、読み慣れる。 ②代表的な説話を読み、王朝文学とは内容・表記とも全く異なる『今昔物語』の世界を理解する。			
授業の内容	1. <課題レポート「やさしくリライトした今昔物語を読む」の中から受講者が興味・関心を寄せた話を選んで、講読の対象とする> 2. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 3. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 4. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 5. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 6. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 7. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 8. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 9. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 10. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 11. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 12. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 13. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 14. <原則として授業ごとに一話ずつ読んでいく予定> 15. まとめ			
評価方法	① 出席状況 20% ③ 課題レポート 30% ② 試験(授業で使用した資料持ちこみ可)の結果 50%			
教材・教科書	≪前期に同じ≫ 「国語便覧」の類があれば持参すること			
留意点	① 出席状況 20% ③ 課題レポート 30% ② 試験(授業で使用した資料持ちこみ可)の結果 50%			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本文学概論 A		担当教員	畠山篤	
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード	J53000
概要	[キーワード: 日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質] 日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質を、事例研究に徹して究める。				
到達目標	日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質を知る。				
授業の内容	1.発生と場の関係を、国見から究める。 2.発生と場の関係を、歌垣から究める。 3.発生と場の関係を、審神者から究める。 4.発生と場の関係を、折口信夫 [国文学の発生] から究める。 5.発生と場の関係を、折口信夫 [国文学の発生] から究める。 6.ことばとところの関係を、「古今和歌集」から究める。 7.ことばとところの関係を、「筑波問答」から究める。 8.ことばとところの関係を、「筑波問答」から究める。 9.ことばとところの関係を、「三冊子」、「去来抄」から究める。 10.ことばとところの関係を、「歌よみに与ふる書」から究める。 11.歴史と風土の関係を、「義経」から究める。 12.歴史と風土の関係を、「義経」から究める。 13.歴史と風土の関係を、「おくのほそ道」から究める。 14.歴史と風土の関係を、「北越雪譜」から究める。 15.歴史と風土の関係を、國木田独歩「武蔵野」から究める。				
評価方法	出席(30 点)・毎回の授業評価・感想文 2 本(35 点×2)・5 回以上休めば再履修				
教材・教科書	『新訂 日本文学概説』 青木・秋葉・石川・岡田・傳馬・山岡 (おうふう)				
留意点	感想文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。				

日本語・日本文学科科目

科目名	日本文学概論 B		担当教員	畠山篤	
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	J53001
概要	[キーワード: 日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質] 日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質を、事例研究に徹して究める。				
到達目標	日本文学の全体の輪郭・日本文学の特質を知る。				
授業の内容	1.神と人の関係を、「古事記」の倭建命伝承から究める。 2.神と人の関係を、「古事記」の倭建命伝承から究める。 3.神と人の関係を、「古事記」の倭建命伝承から究める。 4.神と人の関係を、「今昔物語」から究める。 5.神と人の関係を、植村正久「福音道志流部」から究める。 6.主題と表現の関係を、平安時代の物語から究める。 7.主題と表現の関係を、平安時代の物語から究める。 8.主題と表現の関係を、「西鶴諸国ばなし」から究める。 9.主題と表現の関係を、樋口一葉「たけくらべ」から究める。 10.主題と表現の関係を、芥川龍之介「文芸一般論」から究める。 11.理念と方法の関係を、「源氏物語」から究める。 12.理念と方法の関係を、「無名抄」から究める。 13.理念と方法の関係を、「国家八論」から究める。 14.理念と方法の関係を、「国家八論再論」から究める。 15.理念と方法の関係を、二葉亭四迷「小説総論」から究める。				
評価方法	出席(30 点)・毎回の授業評価・感想文 2 本(35 点×2)・5 回以上休めば再履修				
教材・教科書	『新訂 日本文学概説』 青木・秋葉・石川・岡田・傳馬・山岡 (おうふう)				
留意点	感想文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。				

日本語・日本文学科科目

科目名	日本古典文学史【2013年度入学生】		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J53008																		
概要	〔キーワード： 日本古代文学史、日本中世文学史、日本近世文学史 〕 日本の古代から近世に至る古典文学について、和歌、俳諧、物語、説話、小説、随筆、演劇など様々なジャンルの作品に具体的に触れ、それぞれがどのような社会的・思想的背景を持ち、また、相互にどのように関連し、発展していくのかを体系的に学ぶ。																					
到達目標	日本古典文学史について、文学部の学生として知っていて欲しい基礎的な知識を身につける。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス、古代文学概説</td> <td>10. 近世文学概説</td> </tr> <tr> <td>2. 『古事記』・『日本書紀』の世界</td> <td>11. 俳諧</td> </tr> <tr> <td>3. 古代の和歌</td> <td>12. 近世小説（浮世草子を中心に）</td> </tr> <tr> <td>4. 王朝物語</td> <td>13. 浄瑠璃</td> </tr> <tr> <td>5. 中世文学概説</td> <td>14. 浄瑠璃『曾根崎心中』の舞台鑑賞（DVD）</td> </tr> <tr> <td>6. 中世の和歌</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 説話集・随筆</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 軍記物語</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 能・狂言</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス、古代文学概説	10. 近世文学概説	2. 『古事記』・『日本書紀』の世界	11. 俳諧	3. 古代の和歌	12. 近世小説（浮世草子を中心に）	4. 王朝物語	13. 浄瑠璃	5. 中世文学概説	14. 浄瑠璃『曾根崎心中』の舞台鑑賞（DVD）	6. 中世の和歌	15. まとめ	7. 説話集・随筆		8. 軍記物語		9. 能・狂言	
1. ガイダンス、古代文学概説	10. 近世文学概説																					
2. 『古事記』・『日本書紀』の世界	11. 俳諧																					
3. 古代の和歌	12. 近世小説（浮世草子を中心に）																					
4. 王朝物語	13. 浄瑠璃																					
5. 中世文学概説	14. 浄瑠璃『曾根崎心中』の舞台鑑賞（DVD）																					
6. 中世の和歌	15. まとめ																					
7. 説話集・随筆																						
8. 軍記物語																						
9. 能・狂言																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー 30%、②試験 70%の割合で総合的に評価する。その他、詳細はガイダンスで説明する。																					
教材・教科書	山岸徳平編『作品中心日本文学史』新典社、¥1,050-（税込） その他、授業資料をプリントにして配布する。																					
留意点	6回以上欠席した学生に単位は認定しない。また毎回、テキストに載る解説や作品本文、訳などを出席者に読んで貰うので、テキストを持参しない場合は欠席とみなす。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本古典文学史A		担当教員	三浦一朗
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J53002
概要	「漢文の基礎【2013年度入学生】」を参照してください。			
到達目標				
授業の内容				
評価方法				
教材・教科書				
留意点				

日本語・日本文学科科目

科目名	日本古典文学史 B		担当教員	丸山正道
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード J53003
概要	〔キーワード：日本古典文学史各論〕 日本古典の文学史について、叙事文学、抒情文学、和歌文学、物語文学、日記文学、随筆文学、歴史物語、説話文学、軍記物語、劇文学、俳諧文学、御伽草子、浮世草子、浄瑠璃、歌舞伎、狂歌、川柳、等の各ジャンルについて、具体的に、作品に触れ、学ぶ。			
到達目標	それらの作品を通して、時代と文学との意味合い、人間社会の姿、文学と仏教との兼ね合い、どのような芸術を作者は目指したか、等について、理解を深めていく。			
授業の内容	1. 「やまと歌は、人の心を種として」等 2. 「今日よりは」等 3. 「夏衣まだひとへなる」等 4. 「落ちつもる紅葉を」等 5. 「知らざりつ袖のみ」等 6. 「春がすみかすめるかた」等 7. 「数え知る人なかり」等 8. 「年くれし涙のつらら」等 9. 「ユク河ノナカレハ」等 10. 「又治承四年」等 11. 「あつま地のみち」等 12. 「ふし河といふは」等 13. 「ここに鳥羽禅定法皇」等 14. レポート提出。「ひそかにおもんみれば」等 15. 「しかるに忠盛」等			
評価方法	出席点 20、レポート・試験等の点 80。計 100 点。			
教材・教科書	『日本文学史概説—改訂版—』市古貞次著、秀英出版。但し、テキスト品切れの為、プリント配布。各文学作品も、プリント配布。			
留意点				

日本語・日本文学科科目

科目名	日本近代現代文学史【2013 年度入学生】		担当教員	井上諭一
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J53009
概要	〔キーワード 常識、近代文学史、ベスト 100〕 文学部の学生にとってごく常識的な近代文学史の知識を広く修得する。対象とする時代は、江戸時代後期から現代に至る、広い意味での「近代」すべてである。その際、近代文学を代表する小説約 100 篇から本文の一部をプリントで提示し、勉強の手がかりとする。			
到達目標	近代現代文学史の基本を理解し、文学部の学生として最低限知っていなければならない基礎的知識を得る。			
授業の内容	1. 導入；文学史における「近代」の始まり 2. 19 世紀の文学状況 3. 明治文学史 1（三遊亭円朝、二葉亭四迷） 4. 明治文学史 2（北村透谷、樋口一葉） 5. 明治文学史 3（国木田独步、島崎藤村） 6. 明治文学史 4（夏目漱石、森鷗外） 7. 大正文学史 1（耽美派；永井荷風、谷崎潤一郎） 8. 大正文学史 2（白樺派；志賀直哉、有島武郎） 9. 大正文学史 3（新思潮派、奇蹟派；芥川龍之介、葛西善蔵） 10. 昭和文学史 1（モダニズム；横光利一、川端康成） 11. 昭和文学史 2（20 世紀文学；伊藤整、太宰治） 12. 昭和文学史 3（戦後派；野間宏、大岡昇平、椎名麟三、その他） 13. 昭和文学史 4（第三の新人と内向の世代；安岡章太郎、吉行淳之介、その他） 14. 昭和文学史 5（中上健次、村上龍、村上春樹、その他） 15. まとめ			
評価方法	学期末の講義時間内に試験 1 回を実施（持ち込み禁止、60 分、100 点満点）。講義欠席 1 回につき 3 点をマイナスし、これと試験の得点を合算して評価する。			
教材・教科書	プリント使用			
留意点	この講義は、広く一般的な知識を得ることを目的としているので、個々の作家・作品については、必ずしも詳述しない。			

日本語・日本文学科科目

科目名	日本近代現代文学史 A			担当教員	井上諭一
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J53004
概要	「日本近代現代文学史【2013年度入学生】」を参照してください。				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本近代現代文学史 B			担当教員	井上諭一
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J53005
概要	[キーワード： 20世紀、メディア、マンガ] 20世紀後半の日本文学の特質を歴史的な観点から考察する、いわば「文学史各論」である。現代の日本文学（マンガを含む）はどのようにして世界と向き合っていたか、1950年代から始めて2000年代に至る。				
到達目標	現代の日本文学について、その時々メディアの状況と合わせて、また世界史的観点を含め、深く理解する。				
授業の内容	1. 導入；20世紀後半とは、どんな時代であったか 2. 1950年代の文学1；戦後派と第三の新人 3. 1950年代の文学2；石原慎太郎、大江健三郎、中間小説 4. 1960年代の文学1；政治と文学論争 5. 1960年代の文学2；その後の「第三の新人」 6. 1970年代の文学1；内向の世代 7. 1970年代の文学2；中上健次、村上龍、村上春樹 8. 1980年代の文学；その後の村上春樹 9. 1990年代以降の文学；川上弘美、笹野頼子、多和田葉子 10. 1950年代のマンガ 11. 1960年代のマンガ 12. 1970年代のマンガ 13. 1980年代のマンガ 14. 1990年代以降のマンガ 15. まとめ				
評価方法	学期末の講義時間内に試験1回を実施（持ち込み禁止、60分、100点満点）。講義欠席1回につき3点をマイナスし、これと試験の得点を合算して評価する。				
教材・教科書	清水勲『漫画の歴史』（岩波新書） プリントを併用				
留意点	この講義は、時にかなり専門的な事項に及ぶので、受講生にはある程度文学史の知識があるのが望ましい。なお、この科目の開講は2013年度が最後となることに注意。				

日本語・日本文学科科目

科目名	地域文学研究 A		担当教員	井上諭一																		
対象学年	J3 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J53006																		
概要	[キーワード： 太宰治、初期、小説の方法] 初期の太宰治を精読する。今までの研究史上、比較的軽んじられてきた作品にも光を当て、精密に読んで行く。																					
到達目標	受講者が、既に流布されている俗説に惑わされることなく、新世代の読者として新しい「太宰治」像（それは「実物」としての太宰治と同じではない。）を構築することを目標とする。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入;最初期の太宰治</td> <td>10. 「虚構の春」</td> </tr> <tr> <td>2. 「列車」</td> <td>11. 「狂言の神」</td> </tr> <tr> <td>3. 「漁船記」</td> <td>12. 「二十世紀旗手」</td> </tr> <tr> <td>4. 「思い出」</td> <td>13. 「HUMAN LOST」</td> </tr> <tr> <td>5. 「ロマネスク」</td> <td>14. 「燈籠」</td> </tr> <tr> <td>6. 「道化の華」</td> <td>15. まとめと展望</td> </tr> <tr> <td>7. 「ダス・ゲマイネ」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「めくら草紙」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「陰火」</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入;最初期の太宰治	10. 「虚構の春」	2. 「列車」	11. 「狂言の神」	3. 「漁船記」	12. 「二十世紀旗手」	4. 「思い出」	13. 「HUMAN LOST」	5. 「ロマネスク」	14. 「燈籠」	6. 「道化の華」	15. まとめと展望	7. 「ダス・ゲマイネ」		8. 「めくら草紙」		9. 「陰火」	
1. 導入;最初期の太宰治	10. 「虚構の春」																					
2. 「列車」	11. 「狂言の神」																					
3. 「漁船記」	12. 「二十世紀旗手」																					
4. 「思い出」	13. 「HUMAN LOST」																					
5. 「ロマネスク」	14. 「燈籠」																					
6. 「道化の華」	15. まとめと展望																					
7. 「ダス・ゲマイネ」																						
8. 「めくら草紙」																						
9. 「陰火」																						
評価方法	3000字程度のレポートを学期末に1回課す。(100点満点) 講義欠席一回につき3点をマイナスし、これとレポートの得点を合算して評価する。																					
教材・教科書																						
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	地域文学研究 B		担当教員	井上諭一																		
対象学年	J3 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード J53007																		
概要	[キーワード： 太宰治、中期、人間失格] いわゆる「中期」の太宰治を精読する。有名作品を連続的に取り上げるが、過去の評価に引きずられることなく、現代の文脈に置いたときに見える「太宰治」像を捉えることを目指す。そのために、単語ひとつにもこだわり、また法律、習慣、技術などの変遷とその意味について調べ、社会や技術史全体のなかで「太宰治」のいた場所を明らかにする。																					
到達目標	既存の決まり文句で分かったつもりになるのではなく、受講者各人が「現代における太宰治の読み方」を得ることを目指す。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入;太宰治における「中期」とは、いつか</td> <td>10. 「善蔵を思う」</td> </tr> <tr> <td>2. 「満願」</td> <td>11. 「きりぎりす」</td> </tr> <tr> <td>3. 「富嶽百景」1</td> <td>12. 「東京八景」</td> </tr> <tr> <td>4. 「富嶽百景」2</td> <td>13. 「服装に就いて」</td> </tr> <tr> <td>5. 「女生徒」1</td> <td>14. 「故郷」「帰去来」</td> </tr> <tr> <td>6. 「女生徒」2</td> <td>15. まとめと展望；私たちの太宰治</td> </tr> <tr> <td>7. 「葉桜と魔笛」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「駈込み訴え」1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「駈込み訴え」2</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入;太宰治における「中期」とは、いつか	10. 「善蔵を思う」	2. 「満願」	11. 「きりぎりす」	3. 「富嶽百景」1	12. 「東京八景」	4. 「富嶽百景」2	13. 「服装に就いて」	5. 「女生徒」1	14. 「故郷」「帰去来」	6. 「女生徒」2	15. まとめと展望；私たちの太宰治	7. 「葉桜と魔笛」		8. 「駈込み訴え」1		9. 「駈込み訴え」2	
1. 導入;太宰治における「中期」とは、いつか	10. 「善蔵を思う」																					
2. 「満願」	11. 「きりぎりす」																					
3. 「富嶽百景」1	12. 「東京八景」																					
4. 「富嶽百景」2	13. 「服装に就いて」																					
5. 「女生徒」1	14. 「故郷」「帰去来」																					
6. 「女生徒」2	15. まとめと展望；私たちの太宰治																					
7. 「葉桜と魔笛」																						
8. 「駈込み訴え」1																						
9. 「駈込み訴え」2																						
評価方法	3000字程度のレポートを学期末に1回課す。(100点満点) 講義欠席一回につき3点をマイナスし、これとレポートの得点を合算して評価する。																					
教材・教科書																						
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	上代文学B		担当教員	畠山篤																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54001																		
概要	〔キーワード： 文学の発生と展開 〕 万葉集の紫の歌が発生・展開した過程（発想）を辿ることによって、上代文学がどのように発生・展開しているかを展望する。																					
到達目標	1.作品をきちんと解釈できる。 2.自分なりの上代文学の像を作り上げられる。																					
授業の内容	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;">1. 紫の感情発想の解明</td> <td style="width:50%; border:none;">10. 菓狩りの紫衣</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">2. 大衆的な恋情発想</td> <td style="border:none;">11. 成女戒の紫の</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">3. 外来文化</td> <td style="border:none;">12. 年中行事からの発想</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">4. 恋衣</td> <td style="border:none;">13. 周縁に放つ紫の光芒</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">5. 妻訪いの紫衣</td> <td style="border:none;">14. 在来文化と外来文化の融合</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">6. 紫の修辞</td> <td style="border:none;">15. まとめ</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">7. 源氏物語の紫</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">8. 妻訪いの習俗からの発想</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">9. 歌垣の紫衣</td> <td></td> </tr> </table>				1. 紫の感情発想の解明	10. 菓狩りの紫衣	2. 大衆的な恋情発想	11. 成女戒の紫の	3. 外来文化	12. 年中行事からの発想	4. 恋衣	13. 周縁に放つ紫の光芒	5. 妻訪いの紫衣	14. 在来文化と外来文化の融合	6. 紫の修辞	15. まとめ	7. 源氏物語の紫		8. 妻訪いの習俗からの発想		9. 歌垣の紫衣	
1. 紫の感情発想の解明	10. 菓狩りの紫衣																					
2. 大衆的な恋情発想	11. 成女戒の紫の																					
3. 外来文化	12. 年中行事からの発想																					
4. 恋衣	13. 周縁に放つ紫の光芒																					
5. 妻訪いの紫衣	14. 在来文化と外来文化の融合																					
6. 紫の修辞	15. まとめ																					
7. 源氏物語の紫																						
8. 妻訪いの習俗からの発想																						
9. 歌垣の紫衣																						
評価方法	出席（30点）・毎回の授業評価・感想文（35点×2）																					
教材・教科書	『万葉の紫の発想—恋衣の系譜—』畠山篤（アーツアンドクラフツ）																					
留意点	感想文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中古文学A		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54002																		
概要	[キーワード 王朝文学、和歌、恋歌] 影印本『伊達本・古今和歌集・藤原定家筆』で、作品を読むことが、出来るようになること。又、作品を読解し、鑑賞していく。(演習形式)																					
到達目標	歌われた歌の内容と、その時代背景等を理解する。巻11(恋歌一)から巻15(恋歌五)までを扱う																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 王朝の歌人の歌1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 王朝の歌人の歌2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 王朝の歌人の歌1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 王朝の歌人の歌2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 王朝の歌人の歌1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 王朝の歌人の歌2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人1回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『伊達本・古今和歌集・藤原定家筆』(影印本)、久曾神昇編著、笠間書院、2,000円 『字典かな』(新装版)一写本をよむ楽しみ一、笠間書院、780円																					
留意点	演習形式																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中古文学B		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54003																		
概要	[キーワード 王朝文学、和歌、四季歌] 影印本『伊達本・古今和歌集・藤原定家筆』で、作品を読むことが、出来るようになること。又、作品を読解し、鑑賞していく。(演習形式)																					
到達目標	歌われた歌の内容と、その時代背景等を理解する。巻1(春歌上)から巻6(冬歌)までを扱う。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 王朝の歌人の歌1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 王朝の歌人の歌2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 王朝の歌人の歌1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 王朝の歌人の歌2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 王朝の歌人の歌1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 王朝の歌人の歌2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人一回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『伊達本・古今和歌集・藤原定家筆』(影印本)、久曾神昇編著、笠間書院、2,000円 『字典かな』(新装版)一写本をよむ楽しみ一、笠間書院、780円																					
留意点	演習形式																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世文学A		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54004																		
概要	[キーワード 乱世、世のうつり、一つの生き方] 『大福光寺本・方丈記』(国宝)(影印本)で、作品を読む。『方丈記』を通して、彼の物の見方、考え方を学ぶ。(演習形式)																					
到達目標	「大福光寺本・方丈記」(国宝)(影印本)を、読むことが、出来るようになること。又、描かれた内容と、その時代背景等を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 中世と文人1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 中世と文人2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 中世と文人1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 中世と文人2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 中世と文人1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 中世と文人2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人一回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『大福光寺本・方丈記』(国宝)(影印本)、鈴木知太郎校異、武蔵野書院、1、165円＋税																					
留意点	演習形式																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世文学B		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54005																		
概要	[キーワード 契り、男女の出会い、和歌] 『建礼門院右京大夫集』を読む。この作品は日記的性格と家集的性格等を備えた作品である。若い時、作者は、建礼門院に仕え、体験したことが、中心となっている。(演習形式)																					
到達目標	『建礼門院右京大夫集』を読む。(一部は、影印本を用いる)描かれた内容と、その彼女の生きた時代背景等を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 中世と文人1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 中世と文人2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 中世と文人1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 中世と文人2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 中世と文人1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 中世と文人2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人一回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『建礼門院右京大夫集』、久徳高文著、おうふう、1、854円＋税																					
留意点	演習形式																					

日本語・日本文学科科目

科目名	近世文学A		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54006																		
概要	〔キーワード：日本近世文学、詩歌、小説、演劇〕 近世文学には実に多様なジャンルがある。そのうち、詩歌、小説、演劇の主なものを取り上げて概観する。またジャンルごとに代表的な作品を一部分でも実際に読解して、その特質や魅力を具体的に学ぶ。前期の授業では、近世前期から中期の作品を主に扱う。																					
到達目標	近世文学に極めて多様なジャンルがあることを知り、それぞれの代表的作品を読解することを通じて、各ジャンルの特質と魅力について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 浄瑠璃『心中天の網島』舞台鑑賞 (DVD)</td> </tr> <tr> <td>2. 俳諧 芭蕉・蕪村他</td> <td>11. 浄瑠璃② 近松の時代浄瑠璃</td> </tr> <tr> <td>3. 俳諧遊行『おくのほそ道』</td> <td>12. 歌舞伎① 『勧進帳』</td> </tr> <tr> <td>4. 文学論『去来抄』</td> <td>13. 歌舞伎『勧進帳』舞台鑑賞 (DVD)</td> </tr> <tr> <td>5. 俳文『新花摘』</td> <td>14. 近世の和歌 後水尾天皇他</td> </tr> <tr> <td>6. 仮名草子『浮世物語』他</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 浮世草子① 西鶴の好色物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 浮世草子② 西鶴の町人物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 浄瑠璃① 近松の世話浄瑠璃</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス	10. 浄瑠璃『心中天の網島』舞台鑑賞 (DVD)	2. 俳諧 芭蕉・蕪村他	11. 浄瑠璃② 近松の時代浄瑠璃	3. 俳諧遊行『おくのほそ道』	12. 歌舞伎① 『勧進帳』	4. 文学論『去来抄』	13. 歌舞伎『勧進帳』舞台鑑賞 (DVD)	5. 俳文『新花摘』	14. 近世の和歌 後水尾天皇他	6. 仮名草子『浮世物語』他	15. まとめ	7. 浮世草子① 西鶴の好色物		8. 浮世草子② 西鶴の町人物		9. 浄瑠璃① 近松の世話浄瑠璃	
1. ガイダンス	10. 浄瑠璃『心中天の網島』舞台鑑賞 (DVD)																					
2. 俳諧 芭蕉・蕪村他	11. 浄瑠璃② 近松の時代浄瑠璃																					
3. 俳諧遊行『おくのほそ道』	12. 歌舞伎① 『勧進帳』																					
4. 文学論『去来抄』	13. 歌舞伎『勧進帳』舞台鑑賞 (DVD)																					
5. 俳文『新花摘』	14. 近世の和歌 後水尾天皇他																					
6. 仮名草子『浮世物語』他	15. まとめ																					
7. 浮世草子① 西鶴の好色物																						
8. 浮世草子② 西鶴の町人物																						
9. 浄瑠璃① 近松の世話浄瑠璃																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー 30%、②発表内容 20%、③試験 50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	『江戸の詩歌と小説を知る本』笠間書院、¥1,700+税 その他、授業資料をプリントにして配布する。																					
留意点	5回目以降、受講者には発表をして貰う。その他、詳細はガイダンスで説明する。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	近世文学B		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54007																		
概要	〔キーワード：日本近世文学、詩歌、小説、演劇〕 近世文学には実に多様なジャンルがある。そのうち、詩歌、小説、演劇の主なものを取り上げて概観する。またジャンルごとに代表的な作品を一部分でも実際に読解して、その特質や魅力を具体的に学ぶ。後期の授業では、近世中期から後期の作品を主に扱う。																					
到達目標	近世文学に極めて多様なジャンルがあることを知り、それぞれの代表的作品を読解することを通じて、各ジャンルの特質と魅力について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 狂歌 太田南畝他</td> <td>10. 滑稽本『東海道中膝栗毛』『浮世風呂』</td> </tr> <tr> <td>2. 黄表紙①『金々先生栄花夢』</td> <td>11. 歌舞伎②『青砥稿花紅彩画』(白浪五人男)</td> </tr> <tr> <td>3. 黄表紙②『孔子縞于藍染』</td> <td>12. 歌舞伎『青砥稿花紅彩画』の舞台鑑賞 (DVD)</td> </tr> <tr> <td>4. 川柳『誹風柳多留』初編他</td> <td>13. 草双紙『修紫田舎源氏』他</td> </tr> <tr> <td>5. 怪異小説『伽婢子』</td> <td>14. 人情本『春色梅児誉美』</td> </tr> <tr> <td>6. 読本①『雨月物語』</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 読本②『南総里見八犬伝』</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 漢詩・狂詩 服部南郭・太田南畝他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 洒落本『傾城買四十八手』</td> <td></td> </tr> </table>				1. 狂歌 太田南畝他	10. 滑稽本『東海道中膝栗毛』『浮世風呂』	2. 黄表紙①『金々先生栄花夢』	11. 歌舞伎②『青砥稿花紅彩画』(白浪五人男)	3. 黄表紙②『孔子縞于藍染』	12. 歌舞伎『青砥稿花紅彩画』の舞台鑑賞 (DVD)	4. 川柳『誹風柳多留』初編他	13. 草双紙『修紫田舎源氏』他	5. 怪異小説『伽婢子』	14. 人情本『春色梅児誉美』	6. 読本①『雨月物語』	15. まとめ	7. 読本②『南総里見八犬伝』		8. 漢詩・狂詩 服部南郭・太田南畝他		9. 洒落本『傾城買四十八手』	
1. 狂歌 太田南畝他	10. 滑稽本『東海道中膝栗毛』『浮世風呂』																					
2. 黄表紙①『金々先生栄花夢』	11. 歌舞伎②『青砥稿花紅彩画』(白浪五人男)																					
3. 黄表紙②『孔子縞于藍染』	12. 歌舞伎『青砥稿花紅彩画』の舞台鑑賞 (DVD)																					
4. 川柳『誹風柳多留』初編他	13. 草双紙『修紫田舎源氏』他																					
5. 怪異小説『伽婢子』	14. 人情本『春色梅児誉美』																					
6. 読本①『雨月物語』	15. まとめ																					
7. 読本②『南総里見八犬伝』																						
8. 漢詩・狂詩 服部南郭・太田南畝他																						
9. 洒落本『傾城買四十八手』																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー 30%、②発表内容 20%、③試験 50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	前期開講の近世文学Aに引き続いて、『江戸の詩歌と小説を知る本』(笠間書院、¥1,700+税)を使用する。その他、授業資料をプリントにして配布する。																					
留意点	前期開講の近世文学A(科目コード：J54006)から連続して履修することが望ましい。また、3回目以降は受講者に発表をして貰う。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	近代文学A		担当教員	井上諭一																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54008																		
概要	〔キーワード：短篇、大正、〕 大正時代（1912～1926）に書かれた主要な短篇を連続的に読んでいく。その際、小説作成の方法と、時代状況の二つに注意し、限られた講義時間内に可能な限りの精読を試みる。特に、イデオロギー的対立の状況に注意する。																					
到達目標	20世紀前半の近代小説について、その小説的技法と社会的な立ち位置との両方について考察を深め、当時の「 ^{グランド・ナラティブ} 包括的な物語」について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入;便宜的時代区分とジャンル区分</td> <td>10.岩野泡鳴「猫八」</td> </tr> <tr> <td>2.岡本綺堂「子供役者の死」</td> <td>11.内田百閒「花火」</td> </tr> <tr> <td>3.佐藤春夫「西班牙犬の家」</td> <td>12.菊池寛「入れ札」</td> </tr> <tr> <td>4.里見弴「銀次郎の片腕」</td> <td>13.川端康成「葬式の名人」</td> </tr> <tr> <td>5.広津和郎「師崎行」</td> <td>14.葛西善蔵「椎の若葉」</td> </tr> <tr> <td>6.有島武郎「小さき者へ」</td> <td>15.葉山嘉樹「淫売婦」</td> </tr> <tr> <td>7.久米正雄「虎」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.芥川龍之介「奉教人の死」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.宇野浩二「屋根裏の法学士」</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入;便宜的時代区分とジャンル区分	10.岩野泡鳴「猫八」	2.岡本綺堂「子供役者の死」	11.内田百閒「花火」	3.佐藤春夫「西班牙犬の家」	12.菊池寛「入れ札」	4.里見弴「銀次郎の片腕」	13.川端康成「葬式の名人」	5.広津和郎「師崎行」	14.葛西善蔵「椎の若葉」	6.有島武郎「小さき者へ」	15.葉山嘉樹「淫売婦」	7.久米正雄「虎」		8.芥川龍之介「奉教人の死」		9.宇野浩二「屋根裏の法学士」	
1. 導入;便宜的時代区分とジャンル区分	10.岩野泡鳴「猫八」																					
2.岡本綺堂「子供役者の死」	11.内田百閒「花火」																					
3.佐藤春夫「西班牙犬の家」	12.菊池寛「入れ札」																					
4.里見弴「銀次郎の片腕」	13.川端康成「葬式の名人」																					
5.広津和郎「師崎行」	14.葛西善蔵「椎の若葉」																					
6.有島武郎「小さき者へ」	15.葉山嘉樹「淫売婦」																					
7.久米正雄「虎」																						
8.芥川龍之介「奉教人の死」																						
9.宇野浩二「屋根裏の法学士」																						
評価方法	出席とレポートを合算する。出席は毎回コメントカードで確認し、欠席一回につき3点をマイナスする。学期末のレポートは2500字程度で100点満点。																					
教材・教科書	『日本近代短篇小説選 大正篇』岩波文庫、ISBN978-4-00-311913-6																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	近代文学B		担当教員	井上諭一																		
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54009																		
概要	〔キーワード：短篇、昭和〕 昭和初期（1926～1945）に書かれた主要な短篇を連続的に読んでいく。その際、小説作成の方法と、時代状況の二つに注意し、限られた講義時間内に可能な限りの精読を試みる。特に、戦争状況の進行と小説の関係については、注意深く読解する。																					
到達目標	20世紀前半の近代小説について、その小説的技法と社会的な立ち位置との両方について考察を深め、当時の「 ^{グランド・ナラティブ} 包括的な物語」について理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入;仮説としての「昭和」</td> <td>10. 伊藤整「生物祭」</td> </tr> <tr> <td>2. 平林たい子「施療室にて」</td> <td>11. 室生犀星「あにいもうと」</td> </tr> <tr> <td>3. 井伏鱒二「鯉」</td> <td>12. 北条民雄「いのちの初夜」</td> </tr> <tr> <td>4. 佐多稲子「キャラメル工場から」</td> <td>13. 高見順「虚実」</td> </tr> <tr> <td>5. 堀辰雄「死の素描」</td> <td>14. 岡本かの子「家霊」</td> </tr> <tr> <td>6. 横光利一「機械」</td> <td>15. 中島敦「文字禍」</td> </tr> <tr> <td>7. 梶井基次郎「闇の絵巻」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 牧野信一「ゼーロン」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 小林多喜二「母たち」</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入;仮説としての「昭和」	10. 伊藤整「生物祭」	2. 平林たい子「施療室にて」	11. 室生犀星「あにいもうと」	3. 井伏鱒二「鯉」	12. 北条民雄「いのちの初夜」	4. 佐多稲子「キャラメル工場から」	13. 高見順「虚実」	5. 堀辰雄「死の素描」	14. 岡本かの子「家霊」	6. 横光利一「機械」	15. 中島敦「文字禍」	7. 梶井基次郎「闇の絵巻」		8. 牧野信一「ゼーロン」		9. 小林多喜二「母たち」	
1. 導入;仮説としての「昭和」	10. 伊藤整「生物祭」																					
2. 平林たい子「施療室にて」	11. 室生犀星「あにいもうと」																					
3. 井伏鱒二「鯉」	12. 北条民雄「いのちの初夜」																					
4. 佐多稲子「キャラメル工場から」	13. 高見順「虚実」																					
5. 堀辰雄「死の素描」	14. 岡本かの子「家霊」																					
6. 横光利一「機械」	15. 中島敦「文字禍」																					
7. 梶井基次郎「闇の絵巻」																						
8. 牧野信一「ゼーロン」																						
9. 小林多喜二「母たち」																						
評価方法	出席とレポートを合算する。出席は毎回コメントカードで確認し、欠席一回につき3点をマイナスする。学期末のレポートは2500字程度で100点満点。																					
教材・教科書	『日本近代短篇小説選 昭和篇1』岩波文庫、ISBN978-4-00-311914-3																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	上代中古文学演習ⅠA		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54012																		
概要	〔キーワード： 平安時代、日記文学、夢、信仰〕 菅原孝標の娘の著『更級日記』を、藤原定家筆（写本・影印）で読んでいく。																					
到達目標	1) 藤原定家筆の写本（影印）で、『更級日記』が、読解できるようになること。 2) 作者が描いた夢と信仰を、考究する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理等。</td> <td>10. 「我さるべき」の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 「あつましの道」の発表と質疑応答</td> <td>11. 「宮など失せ」の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 「ところどころ」の発表と質疑応答</td> <td>12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 「かててしたる」の発表と質疑応答</td> <td>13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 「ひきぬのを」の発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出等。</td> </tr> <tr> <td>6. 「夜ひとよ」の発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7. 「つとめて」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「なとやくるしき」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「我みて」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理等。	10. 「我さるべき」の発表と質疑応答	2. 「あつましの道」の発表と質疑応答	11. 「宮など失せ」の発表と質疑応答	3. 「ところどころ」の発表と質疑応答	12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)	4. 「かててしたる」の発表と質疑応答	13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)	5. 「ひきぬのを」の発表と質疑応答	14. レポート提出等。	6. 「夜ひとよ」の発表と質疑応答	15. 反省点、その他。	7. 「つとめて」の発表と質疑応答		8. 「なとやくるしき」の発表と質疑応答		9. 「我みて」の発表と質疑応答	
1. 受講受理等。	10. 「我さるべき」の発表と質疑応答																					
2. 「あつましの道」の発表と質疑応答	11. 「宮など失せ」の発表と質疑応答																					
3. 「ところどころ」の発表と質疑応答	12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)																					
4. 「かててしたる」の発表と質疑応答	13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)																					
5. 「ひきぬのを」の発表と質疑応答	14. レポート提出等。																					
6. 「夜ひとよ」の発表と質疑応答	15. 反省点、その他。																					
7. 「つとめて」の発表と質疑応答																						
8. 「なとやくるしき」の発表と質疑応答																						
9. 「我みて」の発表と質疑応答																						
評価方法	一人一回以上発表すること。出席点 20、発表・レポート・試験の点 80、の計 100 点。																					
教材・教科書	1) 『御物 更級日記』—藤原定家筆—(写本・影印)、笠間書院、1200 円 2) 『字典かな』(新装版)—写本をよむ楽しみ—、笠間書院、780 円																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	上代中古文学演習ⅠB		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54013																		
概要	〔キーワード： 平安時代、日記文学、夢、信仰〕 菅原孝標の娘の著『更級日記』を、藤原定家筆（写本・影印）で読んでいく。																					
到達目標	1) 藤原定家筆の写本（影印）で、『更級日記』が、読解できるようになること。 2) 作者が描いた夢と信仰を、考究する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理等。</td> <td>10. 「あはれに人」の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 「これは秋の」の発表と質疑応答</td> <td>11. 「うれしくいみしくて」の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 「さてもありぬ」の発表と質疑応答</td> <td>12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)</td> </tr> <tr> <td>4. 「からうして」の発表と質疑応答</td> <td>13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)</td> </tr> <tr> <td>5. 「海までくきぬき」の発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出等。</td> </tr> <tr> <td>6. 「守なして」の発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7. 「そこにて」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「二むらの」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「雪降り」の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理等。	10. 「あはれに人」の発表と質疑応答	2. 「これは秋の」の発表と質疑応答	11. 「うれしくいみしくて」の発表と質疑応答	3. 「さてもありぬ」の発表と質疑応答	12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)	4. 「からうして」の発表と質疑応答	13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)	5. 「海までくきぬき」の発表と質疑応答	14. レポート提出等。	6. 「守なして」の発表と質疑応答	15. 反省点、その他。	7. 「そこにて」の発表と質疑応答		8. 「二むらの」の発表と質疑応答		9. 「雪降り」の発表と質疑応答	
1. 受講受理等。	10. 「あはれに人」の発表と質疑応答																					
2. 「これは秋の」の発表と質疑応答	11. 「うれしくいみしくて」の発表と質疑応答																					
3. 「さてもありぬ」の発表と質疑応答	12. 平安時代と菅原孝標の娘(1)																					
4. 「からうして」の発表と質疑応答	13. 平安時代と菅原孝標の娘(2)																					
5. 「海までくきぬき」の発表と質疑応答	14. レポート提出等。																					
6. 「守なして」の発表と質疑応答	15. 反省点、その他。																					
7. 「そこにて」の発表と質疑応答																						
8. 「二むらの」の発表と質疑応答																						
9. 「雪降り」の発表と質疑応答																						
評価方法	一人一回以上発表すること。出席点 20、発表・レポート・試験の点 80、の計 100 点。																					
教材・教科書	1) 『御物 更級日記』—藤原定家筆—(写本・影印)、笠間書院、1200 円 2) 『字典かな』(新装版)—写本をよむ楽しみ—、笠間書院、780 円																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習 I A		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J3 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J54014																		
概要	<p>〔キーワード： 日本近世文学、浮世草子、井原西鶴、人はばけもの 〕 近世文学を代表する作家である井原西鶴は「人はばけもの、世にない物はなし」（『西鶴諸国ばなし』序）という言葉を残した。人の心の不思議さと、心の闇とを深く掘り下げた西鶴の多様な作品を精読し、その特質と魅力を学ぶ。前期は、性愛をめぐる人の心を描いた作品を主に扱う。</p>																					
到達目標	西鶴作品を表現に即して読解し、表現の特質と、作品が提示する問題について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス①(評価方法、授業の進め方等)</td> <td>10. 『諸艶大鑑』 卷六の二「小指は恋の焼きつけ」</td> </tr> <tr> <td>2. ガイダンス②(発表の準備の仕方等)</td> <td>11. 『武家義理物語』 卷一の二「黒子はむかしの面影」</td> </tr> <tr> <td>3. 『好色五人女』卷四「恋草からげし八百屋物語」の読解・I</td> <td>12. 『武家義理物語』 卷五の五「身がな二つ二人の男に」</td> </tr> <tr> <td>4. 『好色五人女』卷四の読解・II</td> <td>13. 『男色大鑑』 卷二の二「傘持つても濡るる身」</td> </tr> <tr> <td>5. 『好色五人女』卷四の読解・III</td> <td>14. 『懷硯』 卷一の五「人の花散る疱瘡の山」</td> </tr> <tr> <td>6. 『好色五人女』卷四の読解・IV</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 『好色五人女』卷四の読解・V</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『好色一代男』卷七の一「その面影は雪昔」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『諸艶大鑑』卷五の三「死なば諸共の木刀」</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス①(評価方法、授業の進め方等)	10. 『諸艶大鑑』 卷六の二「小指は恋の焼きつけ」	2. ガイダンス②(発表の準備の仕方等)	11. 『武家義理物語』 卷一の二「黒子はむかしの面影」	3. 『好色五人女』卷四「恋草からげし八百屋物語」の読解・I	12. 『武家義理物語』 卷五の五「身がな二つ二人の男に」	4. 『好色五人女』卷四の読解・II	13. 『男色大鑑』 卷二の二「傘持つても濡るる身」	5. 『好色五人女』卷四の読解・III	14. 『懷硯』 卷一の五「人の花散る疱瘡の山」	6. 『好色五人女』卷四の読解・IV	15. まとめ	7. 『好色五人女』卷四の読解・V		8. 『好色一代男』卷七の一「その面影は雪昔」		9. 『諸艶大鑑』卷五の三「死なば諸共の木刀」	
1. ガイダンス①(評価方法、授業の進め方等)	10. 『諸艶大鑑』 卷六の二「小指は恋の焼きつけ」																					
2. ガイダンス②(発表の準備の仕方等)	11. 『武家義理物語』 卷一の二「黒子はむかしの面影」																					
3. 『好色五人女』卷四「恋草からげし八百屋物語」の読解・I	12. 『武家義理物語』 卷五の五「身がな二つ二人の男に」																					
4. 『好色五人女』卷四の読解・II	13. 『男色大鑑』 卷二の二「傘持つても濡るる身」																					
5. 『好色五人女』卷四の読解・III	14. 『懷硯』 卷一の五「人の花散る疱瘡の山」																					
6. 『好色五人女』卷四の読解・IV	15. まとめ																					
7. 『好色五人女』卷四の読解・V																						
8. 『好色一代男』卷七の一「その面影は雪昔」																						
9. 『諸艶大鑑』卷五の三「死なば諸共の木刀」																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容 20%、③試験 50% の割合で総合的に評価する。なお、6 回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は 3 回で欠席 1 回と数える。																					
教材・教科書	『西鶴が語る江戸のラブストーリー』ペリかん社、¥1,995- (税込)																					
留意点	6 回目以降、受講者に講読形式の発表をして貰う。詳細はガイダンスで説明する。初回到発表の順番と担当範囲を決めるので、受講を希望する学生は必ず出席すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習 I B		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J3 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード J54015																		
概要	<p>〔キーワード： 日本近世文学、浮世草子、井原西鶴、人はばけもの 〕 前期開講の I A に引き続いて、人の心の不思議さと、心の闇を深く掘り下げた西鶴の多様な作品を精読し、その特質と魅力を学ぶ。後期は、性愛、金銭をはじめ、人の心を多様に描き出した作品をより広く扱う。</p>																					
到達目標	西鶴作品を表現に即して読解し、表現の特質と、作品が提示する問題について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 『世間胸算用』 卷三の三「小判は寝姿の夢」</td> <td>10. 『西鶴諸国ばなし』 卷一の三「大晦日はあはぬ算用」</td> </tr> <tr> <td>2. 『西鶴置土産』 卷二の二「人には棒振虫同然に思はれ」</td> <td>11. 『日本永代蔵』 卷四の四「茶の十徳も一度に皆」</td> </tr> <tr> <td>3. 『方の文反古』 卷二の三「京にも思ふやうなることなし」</td> <td>12. 『世間胸算用』 卷一の二「長刀はむかしの鞆」</td> </tr> <tr> <td>4. 『西鶴諸国ばなし』 卷四の二「忍び扇の長歌」</td> <td>13. 『世間胸算用』 卷五の三「平太郎殿」</td> </tr> <tr> <td>5. 『本朝二十不孝』 卷二の二「旅行の暮れの僧にて候」</td> <td>14. 『武家義理物語』 卷一の五「死なば同じ波枕とや」</td> </tr> <tr> <td>6. 『本朝二十不孝』 卷三の一「娘盛りの散り桜」</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 『本朝二十不孝』 卷四の二「枕に残す筆の先」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『懷硯』 卷一の二「照を取る昼舟の中」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『懷硯』 卷五の一「面影の似せ男」</td> <td></td> </tr> </table>				1. 『世間胸算用』 卷三の三「小判は寝姿の夢」	10. 『西鶴諸国ばなし』 卷一の三「大晦日はあはぬ算用」	2. 『西鶴置土産』 卷二の二「人には棒振虫同然に思はれ」	11. 『日本永代蔵』 卷四の四「茶の十徳も一度に皆」	3. 『方の文反古』 卷二の三「京にも思ふやうなることなし」	12. 『世間胸算用』 卷一の二「長刀はむかしの鞆」	4. 『西鶴諸国ばなし』 卷四の二「忍び扇の長歌」	13. 『世間胸算用』 卷五の三「平太郎殿」	5. 『本朝二十不孝』 卷二の二「旅行の暮れの僧にて候」	14. 『武家義理物語』 卷一の五「死なば同じ波枕とや」	6. 『本朝二十不孝』 卷三の一「娘盛りの散り桜」	15. まとめ	7. 『本朝二十不孝』 卷四の二「枕に残す筆の先」		8. 『懷硯』 卷一の二「照を取る昼舟の中」		9. 『懷硯』 卷五の一「面影の似せ男」	
1. 『世間胸算用』 卷三の三「小判は寝姿の夢」	10. 『西鶴諸国ばなし』 卷一の三「大晦日はあはぬ算用」																					
2. 『西鶴置土産』 卷二の二「人には棒振虫同然に思はれ」	11. 『日本永代蔵』 卷四の四「茶の十徳も一度に皆」																					
3. 『方の文反古』 卷二の三「京にも思ふやうなることなし」	12. 『世間胸算用』 卷一の二「長刀はむかしの鞆」																					
4. 『西鶴諸国ばなし』 卷四の二「忍び扇の長歌」	13. 『世間胸算用』 卷五の三「平太郎殿」																					
5. 『本朝二十不孝』 卷二の二「旅行の暮れの僧にて候」	14. 『武家義理物語』 卷一の五「死なば同じ波枕とや」																					
6. 『本朝二十不孝』 卷三の一「娘盛りの散り桜」	15. まとめ																					
7. 『本朝二十不孝』 卷四の二「枕に残す筆の先」																						
8. 『懷硯』 卷一の二「照を取る昼舟の中」																						
9. 『懷硯』 卷五の一「面影の似せ男」																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容 20%、③試験 50% の割合で総合的に評価する。なお、6 回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は 3 回で欠席 1 回と数える。																					
教材・教科書	最初の三回のみ、前期の授業に引き続いて『西鶴が語る江戸のラブストーリー』（ペリかん社、¥1,995- (税込)）を使用する。四回目以降は、作品本文をプリントにして配布する。																					
留意点	前期開講の中世近世文学演習 I A (科目コード: J54014) から連続して履修することが望ましい。受講者には講読形式の発表をして貰う。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅠA		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54016																		
概要	[キーワード 雑歌、中世、時代のうつり] 影印本(伝二条為氏筆本)で、『新古今和歌集』を、読むことが、出来るようになること。又、作品を読解し、鑑賞していく。(演習形式)																					
到達目標	作品を読んで、歌われた歌の内容と、その時代背景等を理解する。巻十六(雑歌上)から巻十八(雑歌下)までを扱う。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等。</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等。	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他。	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等。																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他。																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人一回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『新古今和歌集』(下)(影印本)(伝二条為氏筆本)、後藤重郎編、笠間書院、この書籍は品切れの為、教員側でプリントにして、配布する。 『字典かな』(新装版)一写本をよむ楽しみ一、笠間書院、780円+税																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅠB		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54017																		
概要	[キーワード 恋歌、中世、時代のうつり] 影印本(伝二条為氏筆本)で、『新古今和歌集』を読むことが、出来るようになること。又、作品を読解し、鑑賞していく。(演習形式)																					
到達目標	作品を読んで、歌われた歌の内容と、その時代背景等を理解する。巻十一(恋歌一)から巻十五(恋歌五)までを扱う。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 受講受理。グループ分け、等。</td> <td>10. 第九グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2. 第一グループの発表と質疑応答</td> <td>11. 第十グループの発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3. 第二グループの発表と質疑応答</td> <td>12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1</td> </tr> <tr> <td>4. 第三グループの発表と質疑応答</td> <td>13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2</td> </tr> <tr> <td>5. 第四グループの発表と質疑応答</td> <td>14. レポート提出、等。</td> </tr> <tr> <td>6. 第五グループの発表と質疑応答</td> <td>15. 反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7. 第六グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第七グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第八グループの発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> </table>				1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答	2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答	3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1	4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2	5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等。	6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他。	7. 第六グループの発表と質疑応答		8. 第七グループの発表と質疑応答		9. 第八グループの発表と質疑応答	
1. 受講受理。グループ分け、等。	10. 第九グループの発表と質疑応答																					
2. 第一グループの発表と質疑応答	11. 第十グループの発表と質疑応答																					
3. 第二グループの発表と質疑応答	12. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)1																					
4. 第三グループの発表と質疑応答	13. 「自讃歌」を、影印本で読み解く。(プリント配布)2																					
5. 第四グループの発表と質疑応答	14. レポート提出、等。																					
6. 第五グループの発表と質疑応答	15. 反省点、その他。																					
7. 第六グループの発表と質疑応答																						
8. 第七グループの発表と質疑応答																						
9. 第八グループの発表と質疑応答																						
評価方法	演習を一人一回以上行う。出席点20、演習・レポート・試験の点80。計100点。																					
教材・教科書	『新古今和歌集』(下)(影印本)(伝二条為氏筆本)、後藤重郎編、笠間書院、この書籍は品切れの為、教員側でプリントにして、配布する。 『字典かな』(新装版)一写本をよむ楽しみ一、笠間書院、780円+税																					
留意点																						

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅠA			担当教員	井上諭一																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J54018																		
概要	[キーワード: 2000年代、短篇] おおむね過去10年間に書かれた中・短篇を読む。研究史としてはまだ充実していないので、受講者の自由な読みに期待する。取り上げる作品は参加者との協議で決定する。当初の候補として教員から挙げるのは角田光代・吉田修一・糸山秋子など。ひとつの作品について1回の発表を当てる。発表は原則として個人で行うものとし、グループでの発表は行わない。ただし、参加人数や発表者の希望によって調整する。																						
到達目標	テキストの現代的な読みを提示することを最終的な目的とする。参加者には同時代人としての問題意識が求められる。また毎回「司会者」を設定し、学問的な討論の仕方に習熟することを目指す。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入; 発表順の決定</td> <td>10. 発表第7回</td> </tr> <tr> <td>2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について</td> <td>11. 発表第8回</td> </tr> <tr> <td>3. 発表第1回</td> <td>12. 発表第9回</td> </tr> <tr> <td>4. 発表2回</td> <td>13. 発表第10回</td> </tr> <tr> <td>5. 発表第3回</td> <td>14. 発表第11回</td> </tr> <tr> <td>6. 発表第4回</td> <td>15. まとめ; 全体を見渡しての、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表第5回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 中間の補足発表、まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表第6回</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入; 発表順の決定	10. 発表第7回	2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について	11. 発表第8回	3. 発表第1回	12. 発表第9回	4. 発表2回	13. 発表第10回	5. 発表第3回	14. 発表第11回	6. 発表第4回	15. まとめ; 全体を見渡しての、討論	7. 発表第5回		8. 中間の補足発表、まとめ		9. 発表第6回	
1. 導入; 発表順の決定	10. 発表第7回																						
2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について	11. 発表第8回																						
3. 発表第1回	12. 発表第9回																						
4. 発表2回	13. 発表第10回																						
5. 発表第3回	14. 発表第11回																						
6. 発表第4回	15. まとめ; 全体を見渡しての、討論																						
7. 発表第5回																							
8. 中間の補足発表、まとめ																							
9. 発表第6回																							
評価方法	出席(欠席一回につき3点をマイナスする)と発表結果(50点満点)、質疑応答への参加状況(50点満点)を総合。																						
教材・教科書	特に無し。テキストとしては、安価な文庫本を利用する。																						
留意点																							

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅠB			担当教員	井上諭一																		
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J54019																		
概要	[キーワード: 2000年代、短篇、ライトノベル] おおむね過去10年間に書かれた短篇を読む。対象作品は受講者との協議で決定するが、この学期ではライトノベル等も視野に入れる。当初の候補として教員から挙げるのは桜庭一樹・川上未映子など。ひとつの作品について1回の発表を当てる。発表は原則として個人で行うものとし、グループでの発表は行わない。																						
到達目標	前期の「A」と同じく、テキストの同時代的な読みを提示することを最終的な目的とする。また毎回「司会者」を設定し、学問的な討論の仕方に習熟することを目指す。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入; 発表順の決定</td> <td>10. 発表第7回</td> </tr> <tr> <td>2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について</td> <td>11. 発表第8回</td> </tr> <tr> <td>3. 発表第1回</td> <td>12. 発表第9回</td> </tr> <tr> <td>4. 発表2回</td> <td>13. 発表第10回</td> </tr> <tr> <td>5. 発表第3回</td> <td>14. 発表第11回</td> </tr> <tr> <td>6. 発表第4回</td> <td>15. まとめ; 全体を見渡しての、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表第5回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 中間の補足発表、まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表第6回</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入; 発表順の決定	10. 発表第7回	2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について	11. 発表第8回	3. 発表第1回	12. 発表第9回	4. 発表2回	13. 発表第10回	5. 発表第3回	14. 発表第11回	6. 発表第4回	15. まとめ; 全体を見渡しての、討論	7. 発表第5回		8. 中間の補足発表、まとめ		9. 発表第6回	
1. 導入; 発表順の決定	10. 発表第7回																						
2. 発表の仕方・資料(レジュメ)の作り方について	11. 発表第8回																						
3. 発表第1回	12. 発表第9回																						
4. 発表2回	13. 発表第10回																						
5. 発表第3回	14. 発表第11回																						
6. 発表第4回	15. まとめ; 全体を見渡しての、討論																						
7. 発表第5回																							
8. 中間の補足発表、まとめ																							
9. 発表第6回																							
評価方法	出席(欠席一回につき3点をマイナスする)と発表結果(50点満点)、質疑応答への参加状況(50点満点)を総合。																						
教材・教科書	特に無し。テキストとしては、安価な文庫本を利用する。																						
留意点																							

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習 IC			担当教員	顧偉良
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J54020
概要	〔キーワード：〕 大江健三郎の初期作品について二人でペアを組んで発表する。				
到達目標	作品の理解				
授業の内容	1. 『飼育』について 2. 『飼育』について 3. 『飼育』について 4. 『飼育』について 5. 『飼育』について 6. 『飼育』について 7. 『個人的な体験』について 8. 『個人的な体験』について 9. 『個人的な体験』について		1. 『飼育』について 2. 『飼育』について 3. 『飼育』について 4. 『飼育』について 5. 『飼育』について 6. 『飼育』について 7. 『個人的な体験』について 8. 『個人的な体験』について 9. 『個人的な体験』について		
評価方法	出席率30点、発表およびレポート70点				
教材・教科書	『死者の奢り・飼育』『個人的な体験』新潮文庫、				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習 ID			担当教員	顧偉良
対象学年	J3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J54021
概要	〔キーワード：〕 大江健三郎の初期作品について二人でペアを組んで発表する。				
到達目標	作品の理解				
授業の内容	1. 『万延元年のフットボール』について 2. 『万延元年のフットボール』について 3. 『万延元年のフットボール』について 4. 『万延元年のフットボール』について 5. 『万延元年のフットボール』について 6. 『万延元年のフットボール』について 7. 『万延元年のフットボール』について 8. 『万延元年のフットボール』について 9. 『万延元年のフットボール』について		1. 『万延元年のフットボール』について 2. 『万延元年のフットボール』について 3. 『万延元年のフットボール』について 4. 『万延元年のフットボール』について 5. 『万延元年のフットボール』について 6. 『万延元年のフットボール』について 7. 『万延元年のフットボール』について 8. 『万延元年のフットボール』について 9. 『万延元年のフットボール』について		
評価方法	出席率30点、発表およびレポート70点				
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	上代中古文学演習ⅡA		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54022																		
概要	〔キーワード： 日本古代文学、和歌、『万葉集』〕 現存最古の歌集である『万葉集』の和歌について、当時の自然観や習俗、言葉の用法を踏まえながら、表現に即して読解し、その特質と魅力を学ぶ。また、代表的な注釈書の見解を参考にして、解釈の可能性について考える。																					
到達目標	『万葉集』の和歌について、当時の自然観や習俗、言葉の用法を踏まえた理解をし、その特質と魅力について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 401～411 番歌群の解釈</td> </tr> <tr> <td>2. 1番歌の解釈</td> <td>11. 815～852 番歌群の解釈①</td> </tr> <tr> <td>3. 45～49 番歌群の解釈</td> <td>12. 815～852 番歌群の解釈②</td> </tr> <tr> <td>4. 85～90 番歌群の解釈</td> <td>13. 853～863 番歌群の解釈①</td> </tr> <tr> <td>5. 20～21 番歌の解釈</td> <td>14. 853～863 番歌群の解釈②</td> </tr> <tr> <td>6. 16、28 番歌の解釈</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 105～110 番歌群の解釈</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 159～161 番歌群の解釈</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 223～225 番歌群の解釈</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス	10. 401～411 番歌群の解釈	2. 1番歌の解釈	11. 815～852 番歌群の解釈①	3. 45～49 番歌群の解釈	12. 815～852 番歌群の解釈②	4. 85～90 番歌群の解釈	13. 853～863 番歌群の解釈①	5. 20～21 番歌の解釈	14. 853～863 番歌群の解釈②	6. 16、28 番歌の解釈	15. まとめ	7. 105～110 番歌群の解釈		8. 159～161 番歌群の解釈		9. 223～225 番歌群の解釈	
1. ガイダンス	10. 401～411 番歌群の解釈																					
2. 1番歌の解釈	11. 815～852 番歌群の解釈①																					
3. 45～49 番歌群の解釈	12. 815～852 番歌群の解釈②																					
4. 85～90 番歌群の解釈	13. 853～863 番歌群の解釈①																					
5. 20～21 番歌の解釈	14. 853～863 番歌群の解釈②																					
6. 16、28 番歌の解釈	15. まとめ																					
7. 105～110 番歌群の解釈																						
8. 159～161 番歌群の解釈																						
9. 223～225 番歌群の解釈																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容 20%、③試験 50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	作品本文と参考資料をプリントにして配布する。																					
留意点	5回目以降、受講者に講読形式で発表をして貰う。詳細はガイダンスで説明する。初回に発表の日時と担当範囲を決めるので、受講を希望する学生は必ず出席すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	上代中古文学演習ⅡB		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54023																		
概要	〔キーワード： 日本古代文学、和歌、『万葉集』〕 現存最古の歌集である『万葉集』の和歌について、当時の自然観や習俗、言葉の用法を踏まえながら、表現に即して読解し、その特質と魅力を学ぶ。また、代表的な注釈書の見解を参考にして、解釈の可能性について考える。																					
到達目標	『万葉集』の和歌について、当時の自然観や習俗、言葉の用法を踏まえて理解し、その特質と魅力について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 417～419 番歌群の解釈</td> <td>10. 1809～1811 番歌群の解釈②</td> </tr> <tr> <td>2. 446～453 番歌群の解釈①</td> <td>11. 4139～4143 番歌群の解釈①</td> </tr> <tr> <td>3. 446～453 番歌群の解釈②</td> <td>12. 4139～4143 番歌群の解釈②</td> </tr> <tr> <td>4. 537～542 番歌群の解釈</td> <td>13. 4290～4292 番歌群の解釈①</td> </tr> <tr> <td>5. 886～891 番歌群の解釈①</td> <td>14. 4290～4292 番歌群の解釈②</td> </tr> <tr> <td>6. 886～891 番歌群の解釈②</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 980～983、985～986 番歌群の解釈</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 1755、1756 番歌の解釈</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 1809～1811 番歌群の解釈①</td> <td></td> </tr> </table>				1. 417～419 番歌群の解釈	10. 1809～1811 番歌群の解釈②	2. 446～453 番歌群の解釈①	11. 4139～4143 番歌群の解釈①	3. 446～453 番歌群の解釈②	12. 4139～4143 番歌群の解釈②	4. 537～542 番歌群の解釈	13. 4290～4292 番歌群の解釈①	5. 886～891 番歌群の解釈①	14. 4290～4292 番歌群の解釈②	6. 886～891 番歌群の解釈②	15. まとめ	7. 980～983、985～986 番歌群の解釈		8. 1755、1756 番歌の解釈		9. 1809～1811 番歌群の解釈①	
1. 417～419 番歌群の解釈	10. 1809～1811 番歌群の解釈②																					
2. 446～453 番歌群の解釈①	11. 4139～4143 番歌群の解釈①																					
3. 446～453 番歌群の解釈②	12. 4139～4143 番歌群の解釈②																					
4. 537～542 番歌群の解釈	13. 4290～4292 番歌群の解釈①																					
5. 886～891 番歌群の解釈①	14. 4290～4292 番歌群の解釈②																					
6. 886～891 番歌群の解釈②	15. まとめ																					
7. 980～983、985～986 番歌群の解釈																						
8. 1755、1756 番歌の解釈																						
9. 1809～1811 番歌群の解釈①																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容 20%、③試験 50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	作品本文と参考資料をプリントにして配布する。																					
留意点	前期開講の上代中古文学演習ⅡA（科目コード：J54022）から連続して履修することが望ましい。4回目以降、受講者には講読形式で発表をして貰う。初回に発表の日時と担当範囲を決めるので、受講を希望する学生は必ず出席すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅡA		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54024																		
概要	<p>【キーワード： 日本近世文学、読本、怪異小説、上田秋成、『雨月物語』】</p> <p>日本近世文学を代表する作品の一つである上田秋成の読本『雨月物語』について、主要な注釈書を参考にしながら精読し、その特質と魅力を学ぶ。所収九編のうち、「浅茅が宿」「吉備津の釜」「青頭巾」の三編を取り上げる。</p>																					
到達目標	『雨月物語』所収の各編について、先行作品との関係を知り、そこから何を受け継ぎ、どのように発展させたのかを理解する。その上で、各編の表現の特質や主題について理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 「吉備津の釜」の読解・Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>2. 「浅茅が宿」の読解・Ⅰ</td> <td>11. 「青頭巾」の読解・Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>3. 「浅茅が宿」の読解・Ⅱ</td> <td>12. 「青頭巾」の読解・Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>4. 「浅茅が宿」の読解・Ⅲ</td> <td>13. 「青頭巾」の読解・Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>5. 「浅茅が宿」の読解・Ⅳ</td> <td>14. 「青頭巾」の読解・Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>6. 「浅茅が宿」の読解・Ⅴ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「吉備津の釜」の読解・Ⅰ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「吉備津の釜」の読解・Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「吉備津の釜」の読解・Ⅲ</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス	10. 「吉備津の釜」の読解・Ⅳ	2. 「浅茅が宿」の読解・Ⅰ	11. 「青頭巾」の読解・Ⅰ	3. 「浅茅が宿」の読解・Ⅱ	12. 「青頭巾」の読解・Ⅱ	4. 「浅茅が宿」の読解・Ⅲ	13. 「青頭巾」の読解・Ⅲ	5. 「浅茅が宿」の読解・Ⅳ	14. 「青頭巾」の読解・Ⅳ	6. 「浅茅が宿」の読解・Ⅴ	15. まとめ	7. 「吉備津の釜」の読解・Ⅰ		8. 「吉備津の釜」の読解・Ⅱ		9. 「吉備津の釜」の読解・Ⅲ	
1. ガイダンス	10. 「吉備津の釜」の読解・Ⅳ																					
2. 「浅茅が宿」の読解・Ⅰ	11. 「青頭巾」の読解・Ⅰ																					
3. 「浅茅が宿」の読解・Ⅱ	12. 「青頭巾」の読解・Ⅱ																					
4. 「浅茅が宿」の読解・Ⅲ	13. 「青頭巾」の読解・Ⅲ																					
5. 「浅茅が宿」の読解・Ⅳ	14. 「青頭巾」の読解・Ⅳ																					
6. 「浅茅が宿」の読解・Ⅴ	15. まとめ																					
7. 「吉備津の釜」の読解・Ⅰ																						
8. 「吉備津の釜」の読解・Ⅱ																						
9. 「吉備津の釜」の読解・Ⅲ																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容20%、③試験50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	角川ソフィア文庫『改訂版 雨月物語』角川学芸出版、¥820・(税別) その他、参考資料をプリントにして配布する。																					
留意点	4回目以降、受講者には講読形式で発表をして貰う。詳細はガイダンスで説明する。 初日に発表の日時と担当範囲を決めるので、受講を希望する学生は必ず出席すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅡB		担当教員	三浦一朗																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54025																		
概要	<p>【キーワード： 日本近世文学、読本、怪異小説、上田秋成、『春雨物語』】</p> <p>日本近世文学を代表する作品の一つである上田秋成『春雨物語』について、文化五年本の本文により、富岡本をはじめとする各種稿本とも比較しながら精読し、その特質と魅力を学ぶ。具体的には、「死首の咲顔」「宮木が塚」「焚會」の三編を取り上げる。</p>																					
到達目標	文化五年本『春雨物語』所収の各編について、富岡本他の稿本とも比較しながら、表現の特質や主題、作品が提示する問題などについて理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 「焚會」の読解・Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>2. 「死首の咲顔」の読解・Ⅰ</td> <td>11. 「焚會」の読解・Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>3. 「死首の咲顔」の読解・Ⅱ</td> <td>12. 「焚會」の読解・Ⅳ</td> </tr> <tr> <td>4. 「死首の咲顔」の読解・Ⅲ</td> <td>13. 「焚會」の読解・Ⅴ</td> </tr> <tr> <td>5. 「死首の咲顔」の読解・Ⅳ</td> <td>14. 「焚會」の読解・Ⅵ</td> </tr> <tr> <td>6. 「宮木が塚」の読解・Ⅰ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「宮木が塚」の読解・Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 「宮木が塚」の読解・Ⅲ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 「焚會」の読解・Ⅰ</td> <td></td> </tr> </table>				1. ガイダンス	10. 「焚會」の読解・Ⅱ	2. 「死首の咲顔」の読解・Ⅰ	11. 「焚會」の読解・Ⅲ	3. 「死首の咲顔」の読解・Ⅱ	12. 「焚會」の読解・Ⅳ	4. 「死首の咲顔」の読解・Ⅲ	13. 「焚會」の読解・Ⅴ	5. 「死首の咲顔」の読解・Ⅳ	14. 「焚會」の読解・Ⅵ	6. 「宮木が塚」の読解・Ⅰ	15. まとめ	7. 「宮木が塚」の読解・Ⅱ		8. 「宮木が塚」の読解・Ⅲ		9. 「焚會」の読解・Ⅰ	
1. ガイダンス	10. 「焚會」の読解・Ⅱ																					
2. 「死首の咲顔」の読解・Ⅰ	11. 「焚會」の読解・Ⅲ																					
3. 「死首の咲顔」の読解・Ⅱ	12. 「焚會」の読解・Ⅳ																					
4. 「死首の咲顔」の読解・Ⅲ	13. 「焚會」の読解・Ⅴ																					
5. 「死首の咲顔」の読解・Ⅳ	14. 「焚會」の読解・Ⅵ																					
6. 「宮木が塚」の読解・Ⅰ	15. まとめ																					
7. 「宮木が塚」の読解・Ⅱ																						
8. 「宮木が塚」の読解・Ⅲ																						
9. 「焚會」の読解・Ⅰ																						
評価方法	①出席確認を兼ねた、授業に対するコメントペーパー30%、②発表内容20%、③試験50%の割合で総合的に評価する。なお、6回以上欠席した学生に単位は認定しない。遅刻は3回で欠席1回と数える。																					
教材・教科書	『三弥井古典文庫 春雨物語』(三弥井書店、¥1,800・(税別))を使用する。その他、参考資料をプリントにして配布する。																					
留意点	前期開講の中世近世文学演習ⅡA(コード: J54024)から連続して履修することが望ましい。4回目以降、受講者に講読形式で発表をして貰う。初日に発表の日時と担当範囲を決めるので、受講を希望する学生は必ず出席すること。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅡA		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J54026																		
概要	[キーワード 日本文学、生き方、願い] 各自の卒業論文、卒業レポートの研究テーマに基づいて、その文献調査、その読解、その文献を応用していく手順と、その研究発表。(毎回、全員が、研究発表)																					
到達目標	卒業論文、卒業レポートを仕上げていく、その過程とその仕上げとを、この授業は担っている。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.受講受理。</td> <td>10.第七回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2.第一回の発表と質疑応答</td> <td>11.第八回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3.第二回の発表と質疑応答</td> <td>12.第九回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4.第三回の発表と質疑応答</td> <td>13.図書館での学習3</td> </tr> <tr> <td>5.図書館での学習1</td> <td>14.レポート提出、等。</td> </tr> <tr> <td>6.第四回の発表と質疑応答</td> <td>15.反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7.第五回の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.第六回の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.図書館での学習2</td> <td></td> </tr> </table>				1.受講受理。	10.第七回の発表と質疑応答	2.第一回の発表と質疑応答	11.第八回の発表と質疑応答	3.第二回の発表と質疑応答	12.第九回の発表と質疑応答	4.第三回の発表と質疑応答	13.図書館での学習3	5.図書館での学習1	14.レポート提出、等。	6.第四回の発表と質疑応答	15.反省点、その他。	7.第五回の発表と質疑応答		8.第六回の発表と質疑応答		9.図書館での学習2	
1.受講受理。	10.第七回の発表と質疑応答																					
2.第一回の発表と質疑応答	11.第八回の発表と質疑応答																					
3.第二回の発表と質疑応答	12.第九回の発表と質疑応答																					
4.第三回の発表と質疑応答	13.図書館での学習3																					
5.図書館での学習1	14.レポート提出、等。																					
6.第四回の発表と質疑応答	15.反省点、その他。																					
7.第五回の発表と質疑応答																						
8.第六回の発表と質疑応答																						
9.図書館での学習2																						
評価方法	各自、自分の研究テーマに基づいて、発表していく。出席点20、研究発表・レポートの点80。計100点。																					
教材・教科書	各自、自分の研究テーマに基づいた、その文学作品・作家に関する書籍を、テキストとして、必ず1点は、用意すること。																					
留意点	史料綜覧、大日本史料、日本古典文学大系100冊(岩波書店刊)、新 日本古典文学大系100冊(岩波書店刊)を、必ず念頭において、文献調査・読解していくこと。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中世近世文学演習ⅡB		担当教員	丸山正道																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J54027																		
概要	[キーワード 日本文学、生き方、願い] 各自の卒業論文、卒業レポートの研究テーマに基づいて、その文献調査、その読解、その文献を応用していく手順と、その研究発表。(毎回、全員が、研究発表)																					
到達目標	卒業論文、卒業レポートを仕上げていく、その過程とその仕上げとを、この授業は担っている。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.受講受理。</td> <td>10.第七回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>2.第一回の発表と質疑応答</td> <td>11.第八回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>3.第二回の発表と質疑応答</td> <td>12.第九回の発表と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>4.第三回の発表と質疑応答</td> <td>13.図書館での学習3</td> </tr> <tr> <td>5.図書館での学習1</td> <td>14.レポート提出、等。</td> </tr> <tr> <td>6.第四回の発表と質疑応答</td> <td>15.反省点、その他。</td> </tr> <tr> <td>7.第五回の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.第六回の発表と質疑応答</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.図書館での学習2</td> <td></td> </tr> </table>				1.受講受理。	10.第七回の発表と質疑応答	2.第一回の発表と質疑応答	11.第八回の発表と質疑応答	3.第二回の発表と質疑応答	12.第九回の発表と質疑応答	4.第三回の発表と質疑応答	13.図書館での学習3	5.図書館での学習1	14.レポート提出、等。	6.第四回の発表と質疑応答	15.反省点、その他。	7.第五回の発表と質疑応答		8.第六回の発表と質疑応答		9.図書館での学習2	
1.受講受理。	10.第七回の発表と質疑応答																					
2.第一回の発表と質疑応答	11.第八回の発表と質疑応答																					
3.第二回の発表と質疑応答	12.第九回の発表と質疑応答																					
4.第三回の発表と質疑応答	13.図書館での学習3																					
5.図書館での学習1	14.レポート提出、等。																					
6.第四回の発表と質疑応答	15.反省点、その他。																					
7.第五回の発表と質疑応答																						
8.第六回の発表と質疑応答																						
9.図書館での学習2																						
評価方法	各自、自分の研究テーマに基づいて、発表していく。出席点20、研究発表・レポートの点80。計100点。																					
教材・教科書	各自、自分の研究テーマに基づいた、その文学作品・作家に関する書籍を、テキストとして、必ず1点は、用意すること。																					
留意点	史料綜覧、大日本史料、日本古典文学大系100冊(岩波書店刊)、新 日本古典文学大系100冊(岩波書店刊)を、必ず念頭において、文献調査・読解していくこと。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅡA			担当教員	井上諭一																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J54028																		
概要	[キーワード： 先行研究、文学理論、高水準] 参加各人の興味あるテキスト（多くは卒業論文・卒業レポートと関係する）を選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の“文学”にとどまらない。																						
到達目標	文学についての一般的な理論を各自の“読み”に結びつけて行く、その手順を体得することを目指す。最終目標は、新しくて力強く、魅力的な読みにたどり着くことであるが、社会・世界との接点を忘れないようにしたい。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入；発表順の決定</td> <td>10. 発表第7回</td> </tr> <tr> <td>2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し</td> <td>11. 発表第8回</td> </tr> <tr> <td>3. 発表第1回</td> <td>12. 発表第9回</td> </tr> <tr> <td>4. 発表2回</td> <td>13. 発表第10回</td> </tr> <tr> <td>5. 発表第3回</td> <td>14. 発表第11回</td> </tr> <tr> <td>6. 発表第4回</td> <td>15. まとめ；全体を見渡しての、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表第5回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 中間の補足発表、討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表第6回</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入；発表順の決定	10. 発表第7回	2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し	11. 発表第8回	3. 発表第1回	12. 発表第9回	4. 発表2回	13. 発表第10回	5. 発表第3回	14. 発表第11回	6. 発表第4回	15. まとめ；全体を見渡しての、討論	7. 発表第5回		8. 中間の補足発表、討論		9. 発表第6回	
1. 導入；発表順の決定	10. 発表第7回																						
2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し	11. 発表第8回																						
3. 発表第1回	12. 発表第9回																						
4. 発表2回	13. 発表第10回																						
5. 発表第3回	14. 発表第11回																						
6. 発表第4回	15. まとめ；全体を見渡しての、討論																						
7. 発表第5回																							
8. 中間の補足発表、討論																							
9. 発表第6回																							
評価方法	出席（欠席一回につき3点をマイナスする）と発表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。																						
教材・教科書	特に無し。テキストとしては、安価な文庫本を利用する。																						
留意点	最上級の学年を対象とする演習であるから、発表や質疑応答において、それなりの高い水準が要求されるのは当然である。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅡB			担当教員	井上諭一																		
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J54029																		
概要	[キーワード： 先行研究、文学理論、高水準] 参加各人の興味あるテキストを選び、最近の代表的な論文をそれに併せて批判的に読んで行く。議論の領域は、狭義の“文学”にとどまらない。																						
到達目標	前期の「A」同様に、文学理論を各自の“読み”に結びつけて議論して行くが、常に現実の身体・世界との結びつきを念頭に置く。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入；発表順の決定</td> <td>10. 発表第7回</td> </tr> <tr> <td>2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し</td> <td>11. 発表第8回</td> </tr> <tr> <td>3. 発表第1回</td> <td>12. 発表第9回</td> </tr> <tr> <td>4. 発表2回</td> <td>13. 発表第10回</td> </tr> <tr> <td>5. 発表第3回</td> <td>14. 発表第11回</td> </tr> <tr> <td>6. 発表第4回</td> <td>15. まとめ；全体を見渡しての、討論</td> </tr> <tr> <td>7. 発表第5回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 中間の補足発表、討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表第6回</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入；発表順の決定	10. 発表第7回	2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し	11. 発表第8回	3. 発表第1回	12. 発表第9回	4. 発表2回	13. 発表第10回	5. 発表第3回	14. 発表第11回	6. 発表第4回	15. まとめ；全体を見渡しての、討論	7. 発表第5回		8. 中間の補足発表、討論		9. 発表第6回	
1. 導入；発表順の決定	10. 発表第7回																						
2. 予備的な討論；問題意識の洗い出し	11. 発表第8回																						
3. 発表第1回	12. 発表第9回																						
4. 発表2回	13. 発表第10回																						
5. 発表第3回	14. 発表第11回																						
6. 発表第4回	15. まとめ；全体を見渡しての、討論																						
7. 発表第5回																							
8. 中間の補足発表、討論																							
9. 発表第6回																							
評価方法	出席（欠席一回につき3点をマイナスする）と発表結果（50点満点）、質疑応答への参加状況（50点満点）を総合。																						
教材・教科書	特に無し。安価な文庫本を利用する。																						
留意点	発表や質疑応答において、高い水準が要求される。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅡC			担当教員	顧偉良
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J54030
概要	[キーワード:] 川端康成、谷崎純一郎の作品を講読する。				
到達目標	作品の理解				
授業の内容	1. 『雪国』について 2. 『雪国』について 3. 『雪国』について 4. 『雪国』について 5. 『雪国』について 6. 『雪国』について 7. 『雪国』について 8. 『雪国』について 9. 『雪国』について 10. 『雪国』について 11. 『雪国』について 12. 『雪国』について 13. 『雪国』について 14. 『雪国』について 15. 『雪国』について				
評価方法	出席率 30 点、レポート 70 点				
教材・教科書	『雪国』、『鍵・癡癡老人日記』（新潮文庫）				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	近代現代文学演習ⅡD			担当教員	顧偉良
対象学年	J4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J54031
概要	[キーワード:] 川端康成、谷崎純一郎の作品を講読する。				
到達目標	作品の理解				
授業の内容	1. 『癡癡老人日記』について 2. 『癡癡老人日記』について 3. 『癡癡老人日記』について 4. 『癡癡老人日記』について 5. 『癡癡老人日記』について 6. 『癡癡老人日記』について 7. 『癡癡老人日記』について 8. 『癡癡老人日記』について 9. 『癡癡老人日記』について 10. 『癡癡老人日記』について 11. 『癡癡老人日記』について 12. 『癡癡老人日記』について 13. 『癡癡老人日記』について 14. 『癡癡老人日記』について 15. 『癡癡老人日記』について				
評価方法	出席率 30 点、レポート 70 点				
教材・教科書	『雪国』、『鍵・癡癡老人日記』（新潮文庫）				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本文化概論 A【2013 年度入学生】			担当教員	井上諭一																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード	J56001																		
概要	〔キーワード：日本、文化、文化論〕 過去に書かれたいくつかの有名な「日本論」「日本人論」を対比しながら読んでいき、21 世紀における「日本」や「文化」について考える基礎を与える。																						
到達目標	各人が俗説に惑わされることなく、学問的に「文化」を捉えられるようになることを目的とする。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 予備的定義;「文化」と「日本」</td> <td>10. 川端康成「美しい日本の私」</td> </tr> <tr> <td>2. 志賀重昂「日本風景論」</td> <td>11. 横光利一「旅愁」</td> </tr> <tr> <td>3. 新渡戸稲造「武士道」</td> <td>12. 坂口安吾「墮落論」</td> </tr> <tr> <td>4. 岡倉天心「茶の本」</td> <td>13. 丸山真男「日本の思想」</td> </tr> <tr> <td>5. 柳田邦男「遠野物語」</td> <td>14. 土居健郎『『甘え』の構造』</td> </tr> <tr> <td>6. 折口信夫「古代研究」</td> <td>15. まとめ; 今世紀の「日本文化論」</td> </tr> <tr> <td>7. 西田幾多郎「善の研究」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 和辻哲郎「風土」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」</td> <td></td> </tr> </table>					1. 予備的定義;「文化」と「日本」	10. 川端康成「美しい日本の私」	2. 志賀重昂「日本風景論」	11. 横光利一「旅愁」	3. 新渡戸稲造「武士道」	12. 坂口安吾「墮落論」	4. 岡倉天心「茶の本」	13. 丸山真男「日本の思想」	5. 柳田邦男「遠野物語」	14. 土居健郎『『甘え』の構造』	6. 折口信夫「古代研究」	15. まとめ; 今世紀の「日本文化論」	7. 西田幾多郎「善の研究」		8. 和辻哲郎「風土」		9. 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」	
1. 予備的定義;「文化」と「日本」	10. 川端康成「美しい日本の私」																						
2. 志賀重昂「日本風景論」	11. 横光利一「旅愁」																						
3. 新渡戸稲造「武士道」	12. 坂口安吾「墮落論」																						
4. 岡倉天心「茶の本」	13. 丸山真男「日本の思想」																						
5. 柳田邦男「遠野物語」	14. 土居健郎『『甘え』の構造』																						
6. 折口信夫「古代研究」	15. まとめ; 今世紀の「日本文化論」																						
7. 西田幾多郎「善の研究」																							
8. 和辻哲郎「風土」																							
9. 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」																							
評価方法	3000 字程度のレポートを学期末に 1 回課す。(100 点満点) 講義欠席一回につき 3 点をマイナスし、これとレポートの得点を合算して評価する。																						
教材・教科書	大久保喬樹「日本文化論の系譜」(中公新書、ISBN4-12-101696-3)																						
留意点																							

日本語・日本文学科科目

科目名	日本文化概論 B【2013 年度入学生】			担当教員	畠山篤																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	J56002																		
概要	〔キーワード： 両立型文化・在来と外来・行動の原理 〕 具体例に即しながら、日本文化の特徴を抽出する。																						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既知の事例に日本文化の特徴を見出せる。 2. 未知の事例に日本文化の特徴を見出せる。 																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 両立型文化</td> <td>10. 祭り</td> </tr> <tr> <td>2. 対立と分立</td> <td>11. 色彩観</td> </tr> <tr> <td>3. 土着と外来</td> <td>12. 鎖国と開国</td> </tr> <tr> <td>4. 腹と腰</td> <td>13. 文化回帰</td> </tr> <tr> <td>5. 伊勢神功と出雲神社</td> <td>14. 天災と人災</td> </tr> <tr> <td>6. 中央と周縁</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 神徒と仏</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. あの世とこの世</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 穢れと祓え</td> <td></td> </tr> </table>					1. 両立型文化	10. 祭り	2. 対立と分立	11. 色彩観	3. 土着と外来	12. 鎖国と開国	4. 腹と腰	13. 文化回帰	5. 伊勢神功と出雲神社	14. 天災と人災	6. 中央と周縁	15. まとめ	7. 神徒と仏		8. あの世とこの世		9. 穢れと祓え	
1. 両立型文化	10. 祭り																						
2. 対立と分立	11. 色彩観																						
3. 土着と外来	12. 鎖国と開国																						
4. 腹と腰	13. 文化回帰																						
5. 伊勢神功と出雲神社	14. 天災と人災																						
6. 中央と周縁	15. まとめ																						
7. 神徒と仏																							
8. あの世とこの世																							
9. 穢れと祓え																							
評価方法	出席 (30 点)・毎回の授業評価・感想文 (35 点×2)																						
教材・教科書	『日本文化キーワード』遠山・中村・佐藤 有斐閣																						
留意点	感想文は一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。																						

日本語・日本文学科科目

科目名	日本の歴史 A 【2013 年度入学生】		担当教員	遠藤ゆり子																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード J56003																		
概要	〔キーワード： 日本・中世・村・地域社会・領主〕 中世後期の村の歴史を通して、村が成立した理由、領主が存在した意義について考える。 また、中世の歴史を学ぶことで、社会の成り立ちについて検討する。																					
到達目標	* 古文書・記録の読解力を養う。 * 村に注目しながら日本の中世社会について学習し、理解する。 * 歴史を学ぶことを通して、社会科学研究方法の基礎を身につける																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 村の成り立ち</td> </tr> <tr> <td>2. 教科書にみる中世の村</td> <td>11. 戦国時代の村</td> </tr> <tr> <td>3. 村の地図を作る</td> <td>12. 城からみる戦国社会</td> </tr> <tr> <td>4. 村争いの始まり</td> <td>13. 安全の確保</td> </tr> <tr> <td>5. 村と地域社会①</td> <td>14. 荘園制</td> </tr> <tr> <td>6. 村と地域社会②</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 村と領主①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 村と領主②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 村と戦争</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション	10. 村の成り立ち	2. 教科書にみる中世の村	11. 戦国時代の村	3. 村の地図を作る	12. 城からみる戦国社会	4. 村争いの始まり	13. 安全の確保	5. 村と地域社会①	14. 荘園制	6. 村と地域社会②	15. まとめ	7. 村と領主①		8. 村と領主②		9. 村と戦争	
1. オリエンテーション	10. 村の成り立ち																					
2. 教科書にみる中世の村	11. 戦国時代の村																					
3. 村の地図を作る	12. 城からみる戦国社会																					
4. 村争いの始まり	13. 安全の確保																					
5. 村と地域社会①	14. 荘園制																					
6. 村と地域社会②	15. まとめ																					
7. 村と領主①																						
8. 村と領主②																						
9. 村と戦争																						
評価方法	コメントカード(10 点)、報告(20 点)、小テスト(20 点)、期末試験(50 点)																					
教材・教科書	適宜、プリントなどを配付し、参考文献を紹介する。																					
留意点	報告のための予習を必要とする。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	日本の歴史 B 【2013 年度入学生】		担当教員	遠藤ゆり子																		
対象学年	J1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード J56004																		
概要	〔キーワード： 日本・中世・戦国大名・村〕 村を支配する戦国大名について検討する。																					
到達目標	* 古文書・記録の読解力を養う。 * 戦国大名が存在した理由を考えることを通して、日本の中世社会について理解する。 * 歴史を学ぶことを通して、社会科学研究方法の基礎を身につける。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 戦国大名の外交①</td> </tr> <tr> <td>2. 戦国大名家の内乱①</td> <td>11. 戦国大名の外交②</td> </tr> <tr> <td>3. 戦国大名家の内乱②</td> <td>12. 戦国大名の外交③</td> </tr> <tr> <td>4. 戦国家法①</td> <td>13. 刀狩り①</td> </tr> <tr> <td>5. 戦国家法②</td> <td>14. 刀狩り②</td> </tr> <tr> <td>6. 津軽地方の歴史①(巡見)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 津軽地方の歴史②(巡見)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 戦争/平和①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 戦争/平和②</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション	10. 戦国大名の外交①	2. 戦国大名家の内乱①	11. 戦国大名の外交②	3. 戦国大名家の内乱②	12. 戦国大名の外交③	4. 戦国家法①	13. 刀狩り①	5. 戦国家法②	14. 刀狩り②	6. 津軽地方の歴史①(巡見)	15. まとめ	7. 津軽地方の歴史②(巡見)		8. 戦争/平和①		9. 戦争/平和②	
1. オリエンテーション	10. 戦国大名の外交①																					
2. 戦国大名家の内乱①	11. 戦国大名の外交②																					
3. 戦国大名家の内乱②	12. 戦国大名の外交③																					
4. 戦国家法①	13. 刀狩り①																					
5. 戦国家法②	14. 刀狩り②																					
6. 津軽地方の歴史①(巡見)	15. まとめ																					
7. 津軽地方の歴史②(巡見)																						
8. 戦争/平和①																						
9. 戦争/平和②																						
評価方法	コメントカード・レポート(30 点)、報告(10 点)、小テスト(20 点)、期末試験(40 点)																					
教材・教科書	適宜、プリントなどを配付し、参考文献を紹介する。																					
留意点	* 日本史 A を受講していることが望ましい。 * 報告のための予習を必要とする。 * 巡見先によっては、入館料や交通費等の費用がかかることがある。 * 巡見の詳細な日程は授業中に発表する。土曜日を実施することがある。																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学概論(中国文学史を含む) 【2013年度入学生】		担当教員	中屋敷宏																		
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J56010																		
概要	〔キーワード： 中国の詩(漢詩) 詩人の精神、現代社会 〕 中国の代表的詩人の詩を読み、人間、社会、歴史について考える。																					
到達目標	詩人たちの感受性と思考の性質を理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 中国の国土と文学</td> <td>10. 南北朝時代のいくつかの作品</td> </tr> <tr> <td>2. 宗教から文学へ</td> <td>11. 陶淵明－穩逸の詩(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 詩経の詩</td> <td>12. 陶淵明－穩逸の詩(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 漢時代の詩－英雄の詩</td> <td>13. 初唐の詩(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 漢時代の詩－宮廷女性の詩</td> <td>14. 初唐の詩(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 漢時代の詩－戦争と女性</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 漢時代の詩－貴族社会の詩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 漢時代の詩－別離の詩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 漢時代の詩－曹操と曹植</td> <td></td> </tr> </table>				1. 中国の国土と文学	10. 南北朝時代のいくつかの作品	2. 宗教から文学へ	11. 陶淵明－穩逸の詩(1)	3. 詩経の詩	12. 陶淵明－穩逸の詩(2)	4. 漢時代の詩－英雄の詩	13. 初唐の詩(1)	5. 漢時代の詩－宮廷女性の詩	14. 初唐の詩(2)	6. 漢時代の詩－戦争と女性	15. まとめ	7. 漢時代の詩－貴族社会の詩		8. 漢時代の詩－別離の詩		9. 漢時代の詩－曹操と曹植	
1. 中国の国土と文学	10. 南北朝時代のいくつかの作品																					
2. 宗教から文学へ	11. 陶淵明－穩逸の詩(1)																					
3. 詩経の詩	12. 陶淵明－穩逸の詩(2)																					
4. 漢時代の詩－英雄の詩	13. 初唐の詩(1)																					
5. 漢時代の詩－宮廷女性の詩	14. 初唐の詩(2)																					
6. 漢時代の詩－戦争と女性	15. まとめ																					
7. 漢時代の詩－貴族社会の詩																						
8. 漢時代の詩－別離の詩																						
9. 漢時代の詩－曹操と曹植																						
評価方法	出席 40 点 試験 60 点																					
教材・教科書	プリント																					
留意点	自分の言葉で書くこと																					

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学概論 A			担当教員	中屋敷宏
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J55000
概要	<p>「中国文学概論 (中国文学史を含む) 【2013 年度入学生】」を参照してください。</p>				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学概論 B			担当教員	中屋敷宏
対象学年	J1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J55001
概要	<p>〔キーワード： 中国の詩(漢詩) 詩人の精神、現代社会 〕 中国の代表的詩人の詩を読み、人間、社会、歴史について考える。</p>				
到達目標	詩人たちの感受性と思考の性質を理解する。				
授業の内容	<p>1. 盛唐の詩 — 自然詩人 2. 盛唐の詩 — 辺塞詩 3. 盛唐の詩 — 李白の生涯と詩(1) 4. 盛唐の詩 — 李白の生涯と詩(2) 5. 杜甫の詩 — 初期の作品 6. 杜甫の詩 — 安祿山の乱時代 7. 杜甫の詩 — 流浪の詩 8. 杜甫の詩 — 四川時代の詩 9. 杜甫の詩 — 晩年の詩 10. 中唐 — 白楽天の詩(1) 11. 中唐 — 白楽天の詩(2) 12. 晩唐 — 杜牧の詩 13. 晩唐 — 李商隱の詩 14. 宋の詩—陸游の詩 15. まとめ</p>				
評価方法	出席 40 点 試験 60 点				
教材・教科書	プリント				
留意点	自分の言葉で書くこと				

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学講読 A		担当教員	中屋敷宏
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード J55002
概要	〔キーワード：時代 思想〕 中国の文学と思想は切り離せない関係にある。中国の代表的思想を学習する。			
到達目標	中国には中国特有の考え方がある。しかし、そこには人類の普遍性もある。それを理解する。			
授業の内容	1.講義のテーマについて 2.春秋時代と孔子 3.論語の思想—理想社会論 4.論語の思想—理想政治論 5.論語の思想—人間形成論 6.論語の思想—処生論 7.論語の思想—人物評価 8.戦国時代について 9.孟子—仁義の政治		1.講義のテーマについて 2.春秋時代と孔子 3.論語の思想—理想社会論 4.論語の思想—理想政治論 5.論語の思想—人間形成論 6.論語の思想—処生論 7.論語の思想—人物評価 8.戦国時代について 9.孟子—仁義の政治	
評価方法	出席 40 点 試験 60 点			
教材・教科書	プリント			
留意点	思想と言っても、そう難しいものではない。人間としての感性で理解して欲しい。			

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学講読 B		担当教員	中屋敷宏
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード J55003
概要	〔キーワード：時代 思想〕 中国の文学と思想は切り離せない関係にある。中国の代表的思想を学習する。			
到達目標	中国には中国特有の考え方がある。しかし、そこには人類の普遍性もある。それを理解する。			
授業の内容	1.韓非子 — 法と刑による統治 2.韓非子 — 人間観 3.兵家— 戦争の思想 4.兵家— 勝利の方法 5.儒教の復興 — 大学の思想 6.儒教の展開 — 朱子と王陽明 7.墨子の思想 — 兼愛 8.墨子の思想 — 非戦 9.墨子の思想 — 尚賢		10.墨子の思想 — 節用 11.老荘思想(1) 12.老荘思想(2) 13.管子の思想—政治話 14.管子の思想—王者の資格 15.まとめ	
評価方法	出席 40 点 試験 60 点			
教材・教科書	プリント			
留意点	思想と言っても、そう難しいものではない。人間としての感性で理解して欲しい。			

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学演習 A			担当教員	顧偉良
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	J55004
概要	[キーワード:] 清王朝の最も長い小説『紅樓夢』(1784)を講読する。				
到達目標	中国古典小説の理解				
授業の内容	1. 第一回 石頭記の由来 2. 第二回 石頭記の由来 3. 第三回 石頭記の由来 4. 第四回 石頭記の由来 5. 第五回 石頭記の由来 6. 第六回 大観園の人物描写 7. 第七回 大観園の人物描写 8. 第八回 大観園の人物描写 9. 第九回 大観園の人物描写 10. 第十回 大観園の人物描写 11. 第十一回 大観園の人物描写 12. 第十二回 大観園の人物描写 13. 第十三回 大観園の人物描写 14. 第十四回 大観園の人物描写 15. 第十五回 大観園の人物描写				
評価方法	出席率30 レポート70点				
教材・教科書	プリント配布				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	中国文学演習 B			担当教員	顧偉良
対象学年	J2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	J55005
概要	[キーワード:] 清王朝の最も長い小説『紅樓夢』(1784)を講読する。				
到達目標	中国古典小説の理解				
授業の内容	1. 第十六回 大観園の風景描写 2. 第十七回 大観園の風景描写 3. 第十八回 大観園の風景描写 4. 第十九回 大観園の風景描写 5. 第二十回 大観園の風景描写 6. 第二十一回 大観園の風景描写 7. 第二十二回 大観園の風景描写 8. 第二十三回 大観園の風景描写 9. 第二十四回 大観園の風景描写 10. 第二十五回 大観園の風景描写 11. 第二十六回 大観園の風景描写 12. 第二十七回 大観園の風景描写 13. 第二十八回 大観園の風景描写 14. 第二十九回 大観園の風景描写 15. 第三十回 大観園の風景描写				
評価方法	出席率30 レポート70点				
教材・教科書	プリント配布				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	畠山篤
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41401
概要	[キーワード: 発想・主題・構想・叙述・推敲] 上代文学、中古文学、口承文学を研究対象にし、自ら問題を見つけ、解明していく。すなわち、発想を豊かにして主題を見出し、これを構想化して叙述し、さらに推敲する。				
到達目標	自分の発想と主題を大切に、明快な構想と叙述を心掛け、推敲を反復する。				
授業の内容	1. 執筆の方法(1) 2. 執筆の方法(2) 3. 執筆の方法(3) 4. 執筆の方法(4) 5. 執筆の方法(5) 6. 執筆(1) 7. 執筆(2) 8. 執筆(3) 9. 執筆(4) 10. 執筆(5)	11. 執筆(6) 12. 執筆(7) 13. 執筆(8) 14. 執筆(9) 15. 執筆(10) 16. 執筆(11) 17. 執筆(12) 18. 執筆(13) 19. 執筆(14) 20. 執筆(15)	21. 推敲(1) 22. 推敲(2) 23. 推敲(3) 24. 推敲(4) 25. 推敲(5) 26. 推敲(6) 27. 推敲(7) 28. 推敲(8) 29. 推敲(9) 30. 推敲(10)		
評価方法	出席(30点)、論文の内容(70点)				
教材・教科書					
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	三浦一朗
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41402
概要	[キーワード: 日本近世文学、テーマ設定、意見の吟味、説得力のある論述] 日本近世文学から好きな作者や作品を選び、その特質と魅力に迫るためのテーマを自ら設定して考える。先行論を踏まえて作品を読解し、根拠を挙げて、自分の見解を論理的に述べる。				
到達目標	設定したテーマについて、先行論を踏まえ、根拠を挙げながら自分の意見を論理的に記述できる。読む人に「この作品を読んでみたい」と思わせるような卒業論文を完成させる。				
授業の内容	1. 【前期】 ガイダンス 2. 論文の基本的構成 3. 扱う作者・作品の絞り込み 4. 作者・作品の基礎的調査 5. 調査報告と確認 6. 作品通読 (以下継続) 7. 参考文献リストの作成 8. 先行論の收拾と読解① 9. 先行論の收拾と読解② 10. 先行論の收拾と読解③	11. 先行論の整理① 12. 先行論の整理② 13. 研究計画作成① 14. 研究計画作成② 15. 研究計画作成③ 16. 【後期】 中間構想発表 17. 具体的な執筆計画作成① 18. 具体的な執筆計画作成② 19. 具体的な執筆計画作成③ 20. 作品と関連資料の分析①	21. 作品と関連資料の分析② 22. 作品と関連資料の分析③ 23. 論文執筆と推敲① 24. 論文執筆と推敲② 25. 論文執筆と推敲③ 26. 論文執筆と推敲④ 27. 論文執筆と推敲⑤ 28. 論文評価① 29. 論文評価② 30. 総括		
評価方法	提出された卒業論文の内容 (80%) と口頭試問の結果 (20%) で評価する。ただし、前期から継続して定期的に指導を受けることを評価の必要条件とする。定期的に指導を受けずに、卒業論文だけを提出することはできない。				
教材・教科書	各自が選んだ作者や作品、テーマによって個別に指導する。				
留意点	弘前大学図書館の共通利用証を作っておくこと。 必ず期日までに卒業論文を完成させて提出すること。				

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	顧偉良
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41403
概要	[キーワード： 人文科学の意義は、言葉の文化および歴史に対する検証にある。卒業論文は、作家や作品をめぐる自らの問題意識の発見および論文の企画力を鍛える知的活動であるに違いない。]				
到達目標	論文の完成				
授業の内容	1. 卒業論文の構想について	11. 口頭発表	21. 執筆指導		
	2. 卒業論文の構想について	12. 口頭発表	22. 執筆指導		
	3. 卒業論文の構想について	13. 口頭発表	23. 執筆指導		
	4. 卒業論文の構想について	14. 口頭発表	24. 執筆指導		
	5. 卒業論文の構想について	15. 口頭発表	25. 執筆指導		
	6. 資料調査	16. 執筆指導	26. 執筆指導		
	7. 資料調査	17. 執筆指導	27. 執筆指導		
	8. 資料調査	18. 執筆指導	28. 執筆指導		
	9. 資料調査	19. 執筆指導	29. 執筆指導		
	10. 資料調査	20. 執筆指導	30. 論文提出		
評価方法	出席率10点、卒業論文90点				
教材・教科書	研究テーマに基づいて関連資料を指示する。				
留意点					

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	井上諭一
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41404
概要	[キーワード： 問題発見、意志、倫理] 自分自身の意志により問題を発見し、考え、解決していく。具体的には概ね毎週1回の指導を受け、前期中は主に調査を、後期には執筆を行う。				
到達目標	研究上の倫理を守って研究を進める手順を体得し、論文を完成させる。				
授業の内容	前期；テキスト読破（「全集」のある作家ならば、ほぼそれを読み終わる程度）	11. 12. 13.	21. 22. 23.		
	参考文献、先行研究などの収集（そのためのリストづくりから始める）	14. 15. 16.	24. 25. 26.		
	後期；主に執筆（下書き段階で継続的な指導を受ける。ただし、指導は「添削」ではないことに注意すること）	17. 18. 19.	27. 28. 29.		
	10月初旬に「アウトライン」（章立て）、11月下旬に下書きの提出を義務づける。	20. 30.			
評価方法	完成した論文に対する評価（80点満点）、口頭試問の結果（20点満点）を総合する。原則として、卒論発表会での発表を義務付ける。				
教材・教科書	特に無し。				
留意点	指導への出席だけでは評価対象とならない。				

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	今村かほる																														
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41405																														
概要	〔キーワード： 学術研究の基礎を極める 〕 学術論文の書き方、構成を理解する。 学術論文を書く。																																		
到達目標	学術研究の流れを理解し、学術論文としての卒業論文を作る。																																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 論文を書くということ</td> <td>11. 調査準備</td> <td>21. 分析</td> </tr> <tr> <td>2. 論文の構成</td> <td>12. 調査準備</td> <td>22. 執筆</td> </tr> <tr> <td>3. 先行研究の求め方</td> <td>13. 調査準備</td> <td>23. 執筆</td> </tr> <tr> <td>4. 先行研究調査</td> <td>14. 調査実施</td> <td>24. 執筆</td> </tr> <tr> <td>5. 先行研究調査</td> <td>15. 調査実施</td> <td>25. 校正</td> </tr> <tr> <td>6. 仮説の求め方</td> <td>16. 資料整理</td> <td>26. 校正</td> </tr> <tr> <td>7. 仮説の求め方</td> <td>17. 資料整理</td> <td>27. 校正</td> </tr> <tr> <td>8. 調査計画</td> <td>18. 資料整理</td> <td>28. 発表準備</td> </tr> <tr> <td>9. 調査計画</td> <td>19. 分析</td> <td>29. 発表</td> </tr> <tr> <td>10. 調査計画</td> <td>20. 分析</td> <td>30. 総括</td> </tr> </table>					1. 論文を書くということ	11. 調査準備	21. 分析	2. 論文の構成	12. 調査準備	22. 執筆	3. 先行研究の求め方	13. 調査準備	23. 執筆	4. 先行研究調査	14. 調査実施	24. 執筆	5. 先行研究調査	15. 調査実施	25. 校正	6. 仮説の求め方	16. 資料整理	26. 校正	7. 仮説の求め方	17. 資料整理	27. 校正	8. 調査計画	18. 資料整理	28. 発表準備	9. 調査計画	19. 分析	29. 発表	10. 調査計画	20. 分析	30. 総括
1. 論文を書くということ	11. 調査準備	21. 分析																																	
2. 論文の構成	12. 調査準備	22. 執筆																																	
3. 先行研究の求め方	13. 調査準備	23. 執筆																																	
4. 先行研究調査	14. 調査実施	24. 執筆																																	
5. 先行研究調査	15. 調査実施	25. 校正																																	
6. 仮説の求め方	16. 資料整理	26. 校正																																	
7. 仮説の求め方	17. 資料整理	27. 校正																																	
8. 調査計画	18. 資料整理	28. 発表準備																																	
9. 調査計画	19. 分析	29. 発表																																	
10. 調査計画	20. 分析	30. 総括																																	
評価方法	出席20・提出物80																																		
教材・教科書																																			
留意点																																			

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	丸山正道																														
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41406																														
概要	〔キーワード 中世文学、和歌文学、説話文学 〕、 自分の卒業論文の研究テーマに基づいて、その文献調査、その文献の読解、その文献を卒業論文に応用していく手順と、その研究発表。																																		
到達目標	中世文学、和歌文学、説話文学等を日本文学の研究対象とし、研究者独自の考え方を養成しながら、研究に立ち向かい、問題点とその問題点の解明を目指して、卒業論文を完成させる。結論は、必ず導き出すこと。																																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.年間計画。研究・執筆の心構え等。</td> <td>11.卒業論文執筆(1)</td> <td>21.卒業論文執筆(11)</td> </tr> <tr> <td>2.卒業論文テーマ探究(1)</td> <td>12.卒業論文執筆(2)</td> <td>22.卒業論文執筆(12)</td> </tr> <tr> <td>3.卒業論文テーマ探究(2)</td> <td>13.卒業論文執筆(3)</td> <td>23.卒業論文執筆(13)</td> </tr> <tr> <td>4.卒業論文テーマ探究(3)</td> <td>14.卒業論文執筆(4)</td> <td>24.卒業論文執筆(14)</td> </tr> <tr> <td>5.卒業論文テーマ探究(4)</td> <td>15.卒業論文執筆(5)</td> <td>25.卒業論文執筆(15)</td> </tr> <tr> <td>6.卒業論文執筆準備(1)</td> <td>16.卒業論文執筆(6)</td> <td>26.卒業論文執筆(16)</td> </tr> <tr> <td>7.卒業論文執筆準備(2)</td> <td>17.卒業論文執筆(7)</td> <td>27.卒業論文執筆(17)</td> </tr> <tr> <td>8.卒業論文執筆準備(3)</td> <td>18.卒業論文執筆(8)</td> <td>28.卒業論文執筆(18)</td> </tr> <tr> <td>9.卒業論文執筆準備(4)</td> <td>19.卒業論文執筆(9)</td> <td>29.卒業論文提出</td> </tr> <tr> <td>10.卒業論文執筆準備(5)</td> <td>20.卒業論文執筆(10)</td> <td>30.反省点、その他</td> </tr> </table>					1.年間計画。研究・執筆の心構え等。	11.卒業論文執筆(1)	21.卒業論文執筆(11)	2.卒業論文テーマ探究(1)	12.卒業論文執筆(2)	22.卒業論文執筆(12)	3.卒業論文テーマ探究(2)	13.卒業論文執筆(3)	23.卒業論文執筆(13)	4.卒業論文テーマ探究(3)	14.卒業論文執筆(4)	24.卒業論文執筆(14)	5.卒業論文テーマ探究(4)	15.卒業論文執筆(5)	25.卒業論文執筆(15)	6.卒業論文執筆準備(1)	16.卒業論文執筆(6)	26.卒業論文執筆(16)	7.卒業論文執筆準備(2)	17.卒業論文執筆(7)	27.卒業論文執筆(17)	8.卒業論文執筆準備(3)	18.卒業論文執筆(8)	28.卒業論文執筆(18)	9.卒業論文執筆準備(4)	19.卒業論文執筆(9)	29.卒業論文提出	10.卒業論文執筆準備(5)	20.卒業論文執筆(10)	30.反省点、その他
1.年間計画。研究・執筆の心構え等。	11.卒業論文執筆(1)	21.卒業論文執筆(11)																																	
2.卒業論文テーマ探究(1)	12.卒業論文執筆(2)	22.卒業論文執筆(12)																																	
3.卒業論文テーマ探究(2)	13.卒業論文執筆(3)	23.卒業論文執筆(13)																																	
4.卒業論文テーマ探究(3)	14.卒業論文執筆(4)	24.卒業論文執筆(14)																																	
5.卒業論文テーマ探究(4)	15.卒業論文執筆(5)	25.卒業論文執筆(15)																																	
6.卒業論文執筆準備(1)	16.卒業論文執筆(6)	26.卒業論文執筆(16)																																	
7.卒業論文執筆準備(2)	17.卒業論文執筆(7)	27.卒業論文執筆(17)																																	
8.卒業論文執筆準備(3)	18.卒業論文執筆(8)	28.卒業論文執筆(18)																																	
9.卒業論文執筆準備(4)	19.卒業論文執筆(9)	29.卒業論文提出																																	
10.卒業論文執筆準備(5)	20.卒業論文執筆(10)	30.反省点、その他																																	
評価方法	自分の考え方を結論として導き出していることが、肝腎。出席点 20、研究発表・提出卒業論文の点 80。計 100 点。																																		
教材・教科書	自分の研究テーマに基づいた、文学作品・作家をテキストとして、1 点は、必ず用意すること。																																		
留意点	史料綜覧、大日本史料、日本古典文学大系 100 冊(岩波書店刊)、新 日本古典文学大系 100 冊(岩波書店刊)を、必ず念頭において、文献調査・読解していくこと。																																		

日本語・日本文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	野沢勝夫
対象学年	J4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	J41407
概要	[キーワード 参考文献 論文の書き方] <各自のテーマに沿って個別に行う>				
到達目標	充実した卒業論文を作成すること。				
授業の内容	1.執筆の方法(1)	11.執筆(6)	21.推敲(1)		
	2.執筆の方法(2)	12.執筆(7)	22.推敲(2)		
	3.執筆の方法(3)	13.執筆(8)	23.推敲(3)		
	4.執筆の方法(4)	14.執筆(9)	24.推敲(4)		
	5.執筆の方法(5)	15.執筆(10)	25.推敲(5)		
	6.執筆(1)	16.執筆(11)	26.推敲(6)		
	7.執筆(2)	17.執筆(12)	27.推敲(7)		
	8.執筆(3)	18.執筆(13)	28.推敲(8)		
	9.執筆(4)	19.執筆(14)	29.推敲(9)		
	10.執筆(5)	20.執筆(15)	30.推敲(10)		
評価方法	出席状況 30%、卒業論文の出来栄え 70%				
教材・教科書	個別に指示する				
留意点	教師になるべく頻繁に接触するように心掛けてほしい。				